テスト対策

でるモン テスト対策本

国語 中2 光村

解答解説

1 見えないだけ

教科書 見返し　光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

見えないだけ　　牟礼慶子

空の上には
もっと青い空が浮かんでいる
波の底には
もっと大きな海が眠っている
胸の奥で
ことばがはぐくんでいる優しい世界
次の垣根で
蕾をさし出している美しい季節
少し遠くで
待ちかねている新しい友だち
あんなに確かに在るものが
まだここからは見えないだけ

（教科書見返し／牟礼慶子「見えないだけ」）

(1) この詩の種類を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 文語定型詩　イ 文語自由詩
ウ 口語定型詩　エ 口語自由詩

(2) この詩は何連でできているか。漢数字で書きなさい。

(3) よくでる 2・3行目と4・5行目に用いられている表現技法を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 倒置　イ 対句　ウ 反復

(4) よくでる 4・5行目に用いられている表現技法を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 擬人法　イ 倒置　ウ 対句

(5) よくでる 7・9・11行目に用いられている表現技法を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 反復　イ 倒置　ウ 体言止め

(6) ――線「あんなに確かに在るもの」とは何のことか。詩の中から五つ、それぞれ六字以内で書き抜きなさい。

(7) 題名「見えないだけ」とあるが、この詩で表現された「見えない」ものはどのようなものだと作者は考えているか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 遠くて手の届かないもの　イ すばらしくて確実にあるもの
ウ 寂しくてはかないもの　エ 不思議で夢の中にあるもの

1 (1)～(5)・(7)各10点、(6)各8点（順不同）

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)					(7)
エ	二連	イ	ア	ウ	(もっと)青い	空	大きな海	優しい世界	美しい季節	イ
									新しい友だち	

☆(4)(3) 形や内容が対になっている。人ではない「海」が、人のように「眠っている」と表現されている。
☆(5) 「世界」「季節」「友だち」はすべて体言（名詞）。
☆(6) それまで述べられていたものをまとめて「まだ……見えない」としている。

2 広がる学びへ アイスプラネット①

教科書 P.14～25　光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①僕のおじさんは「ぐうちゃん」という。津田由起夫三十八歳。いそうろう。僕の母親の弟だ。いつも母に怒られている。学生の頃に外国のいろんな所を旅していたらしく、気づいたときには僕の家に住み着いていた。そして、長いこと「ぐうたら」しているから、いつのまにか「ぐうちゃん」というあだ名になってしまった。A、ぐうちゃんは変わった人で、そう言われるとなんだかうれしそうだ。それを見て僕の母はまた怒る。怒るけど「これ、ぐうちゃんの好物。」なんて言いながら、ご飯の②支度をしているから母もちょっとB。

僕の家は東京の西のコウガイにあって、父の祖父が建てた。（中略）父は単身フニンで仙台にいて、週末に帰ってくる。ぐうちゃんがいると何か力仕事が必要になったときに安心だから、と言って、③父はぐうちゃんのいそうろうを歓迎しているみたいだ。

ぐうちゃんは、家にいるときはたいてい本を読んでいるか、④唯一のタカラモノであるカメラの掃除、点検などをしている。全く「ぐうたら」ばかりでもなくて、⑤たまに一週間ぐらい留守にするときもある。ぐうちゃんにきくと、そんなときは、全国を回って測量の仕事をしているという。（中略）かといって、ぐうちゃんは、測量の専門家でもないらしい。僕の母は、ぐうちゃんのそういう落ち着かない仕事のしかたが気に入らないようだ。「ちゃんと就職して早く独立しなさい。そうして『C』から卒業しなさい。」といつも怒る。

当のぐうちゃんは、母に怒られても、「でもまあもう少し。」などと訳のわからないことを言う。すると、Dは今度はEに向かって、「ぐうちゃんみたいな大人になってはだめだからね。」と言う。本当に文句ばかりだ。

（教科書P.14～15／椎名誠「アイスプラネット」）

(1) ――線ⓐ～ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる ――線①「僕のおじさんは『ぐうちゃん』という」とあるが、なぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

(3) Aに入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア でも　イ たとえば　ウ したがって　エ では

(4) Bに入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 怒っている　イ 変わっている　ウ 困っている

(5) よくでる ――線②「父は……歓迎しているみたいだ」とあるが、なぜか。その理由を文章中から二十九字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(6) ――線③「たまに一週間ぐらい留守にするときもある」とあるが、なぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

(7) よくでる Cに入る言葉を、文章中から五字で書き抜きなさい。

(8) Dに入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア ぐうちゃん　イ 僕　ウ 母　エ 父

1 (1)(8)各5点、(3)(4)5点、他各15点（(5)完答）

(1)		(2)	(3)	(4)	(5)		(6)	(7)	(8)
ⓐ	ⓑ				初め	終わり			D
したく	郊外	(例)「僕」の家に住み着き、長いこと「ぐうたら」しているから。	ア	イ	ぐうちゃん	安心だから	(例)全国を回って測量の仕事をしているから。	いそうろう	ウ
ⓒ	ⓓ								E
赴任	ゆいいつ								イ

☆(2) 直後の段落に、「気づいたときには……あだ名になってしまった」とある。
☆(4) 直前に「母も」とある。「ぐうちゃんは変わった人」で、その姉である「母も」変わっているということ。
☆(7) 「いそうろう」は、他人の家に住んで食事などの世話になっている人のこと。

3

教科書 P.14～25

広がる学びへ

アイスプラネット②

学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

それから、ぐうちゃんがまた僕の家に帰ってきたのは、九月の新学期が始まってしばらくした頃だった。顔と手足が真っ黒になっていて、パンツ一つになると、①どうしても笑いたくなって困った。

[A]だった。久しぶりにぐうちゃんのほら話を聞きたいと思った。またからかわれてもいい。暑いから、今度は寒い国の話が聞きたい感じだ。

[B]、ぐうちゃんの話は、でっかい動物のでも、暑い国のでも、寒い国の話でもなかった。

「旅費がたまったから、これからまた外国をふらふらしてくるよ。」

ぐうちゃんは②トツゼンそう言った。「でもまあもう少し。」にはこんな意味があったのか。ぐうちゃんはいつもと変わらずに話を続けている。それなのに、③ぐうちゃんの声はどんどん遠くなっていく。気がつくと、僕はぶっきらぼうに言っていた。

「勝手に行けばいいじゃないか。」

ぐうちゃんは、そのときちょっと驚いた表情をした。何かを話しかけようとするぐうちゃんを残して僕は部屋を出た。

それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。母は、そんな僕たちに、あきれたりアワてたりしていたけれど、父は何も言わなかった。

[C]に、ぐうちゃんは小さな旅支度をして④「いそうろう」を卒業してしまった。

[D]、僕は、何て言っていいのかわからないままぐうちゃんの前に立っていた。ぐうちゃんは僕に近づき、あの表情で[E]。そして、何も言わずに僕の手を握りしめ、力の籠もった強い握手をして、⑤大股で僕の家を出ていった。

（教科書P.20～21／椎名誠「アイスプラネット」）

(1) ――線ⓐ～ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる ――線①「どうしても……困った」とあるが、笑いたくなった理由を具体的に説明しなさい。

(3) [　]A・C・Dに入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 十月の初め　イ 残暑が厳しい日　ウ 出発の日

(4) [B]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア さらに　イ ところが　ウ まして　エ なぜなら

(5) ――線②「ぐうちゃんの……なっていく」とあるが、このときの「僕」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 落胆　イ 激怒　ウ 悲観　エ 衝撃

(6) よくでる ――線③「ぶっきらぼう」と同じ意味の言葉を選び、記号で答えなさい。

ア 無作法　イ 無愛想　ウ 無意識　エ 無遠慮

(7) ――線④「いそうろう」を卒業してしまった」とあるが、このことを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①五字）は、（②二字）へ行くために、（③九字）ということ。

(8) [E]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 泣いた　イ にらんだ　ウ 笑った　エ 怒った

1 (1)(3)(7)各5点、(2)15点、他各10点

(1)	ⓐ	突然									
	ⓑ	慌									
	ⓒ	おおまた									
(2)	(例)パンツ一つになると、顔と手足だけが真っ黒になるぐうちゃんがおかしかったから。										
(3)	A	イ	C	ア	D	ウ					
(4)	イ										
(5)	エ										
(6)	イ										
(7)	①	ぐうちゃん									
	②	外国									
	③	僕の家を出ていった									
(8)	ウ										

(2) パンツ一つのぐうちゃんの姿を見るたびに笑いたくなってしまったのである。

(3) 最初の段落に「九月の新学期が始まって」とあることから、時間の推移を整理する。

(5) これまでどおり、ぐうちゃんは自分の家にいるものだと思っていたので、外国に行くというぐうちゃんの言葉を聞いた「僕」は、突然のことに衝撃を受けている。

(6) 「ぶっきらぼう」は無愛想で、そっけないこと。

(8) ぐうちゃんは「僕」の家を出る最後のときまで、「僕」に対して今までと変わらぬやさしい態度で接しているのである。

4

教科書 P.28～31

広がる学びへ

枕草子

学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ⅰ ①夏は夜。月のころはさらなり、②闇もなほ、③蛍の多く④飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも⑤をかし。雨など降るもをかし。

秋は⑥夕暮れ。夕日のさして⑦山の端いと近うなりたるに、⑧烏の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。⑨まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふ⑩べきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふ⑪べきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もて渡るもいと⑫つきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。

（教科書P.28～29／清少納言「枕草子」）

Ⅱ 夏は夜。月の頃は[A]が、闇もやはり、蛍が多く飛びかっている（のがよい）。また、ほんの一、二匹ほのかに光って飛んでいくのも⑬趣がある。雨などが降るのもいい。

（中略）

冬は早朝。雪が降っているのは、言うまでもない。霜が真っ白なのも、またそうでなくても、[B]寒いときに、火などを急いでおこして、炭を持って（廊下などを）通っていくのも、[B]似つかわしい。昼になって、（寒さが）だんだんゆるんでいくと、火桶の火が白い灰ばかりになって、好ましくない。

(1) ――線ⓐ・ⓑの漢字をひらがなに直しなさい。

(2) よくでる ――線①「夏は夜」のあとに省略されている述語を、Ⅰの中から書き抜きなさい。

(3) ――線②・⑧の口語訳として[　]A・Bに入る言葉を答えなさい。

(4) ――線③～⑤を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(5) よくでる 夏、秋、冬で、作者が趣があると考えているのはそれぞれ一日のうちのいつか。Ⅰの中から書き抜きなさい。

(6) ――線⑥「山の端いと近うなりたる」とあるが、何が山の端に近くなるのか。主語にあたる言葉をⅠの中から書き抜きなさい。

(7) ――線⑦「まいて雁などのつらねたるが」とあるが、作者は烏と雁のどちらをより趣深いとしているか、答えなさい。

(8) 「をかし」「あはれなり」と対照的な意味の言葉をⅠの中から書き抜きなさい。

(9) この文章で、作者が唯一「好ましくないもの」として挙げているものは何か。それを説明した一文をⅠの中から抜き出し、初めの五字を答えなさい。

1 (2)(6)(7)(8)(9)各10点、他各5点

(1)	ⓐ	ほたる													
	ⓑ	おもむき													
(2)	をかし														
(3)	A	(例)言うまでもない													
	B	(例)たいそう													
(4)	③	なお													
	④	とびちがいたる													
	⑤	おかし													
(5)	夏	夜													
	秋	夕暮れ													
	冬	つとめて													
(6)	(夕)日														
(7)	雁														
(8)	わろし														
(9)	昼になりて														

(4) 語頭以外の「ひ」は「い」になる。

(5) 四季の趣深いものを挙げた文章である。「秋は夕暮れ」「冬はつとめて」のあとにも、(2)で見た「夏は夜」と同じように、「をかし」が省略されている点に注意。

(6) 夕日が山の端にとても近づいたということを読み取る。

(7) 「まいて（＝まして）」に着目する。

(8) 「をかし」「あはれなり」はいずれも「おもしろい、趣がある」という意味なので、その対の意味をもつ言葉を探す。

5

教科書 P.32〜33・38〜39・40

広がる学びへ

情報整理のレッスン 思考の視覚化／漢字1 熟語の構成／漢字に親しもう1

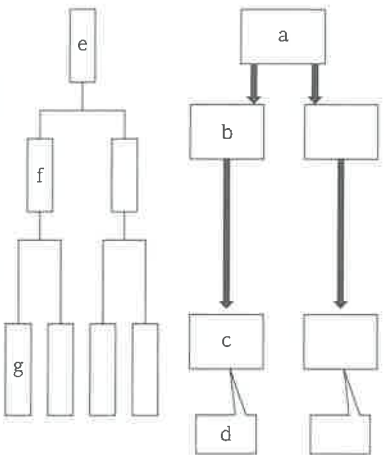
学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　/100点

1 次の図を見て、あとの問いに答えなさい。

【図A】



【図B】

(1) 次の場面で図を用いて情報を整理したい場合、AとBどちらの図を用いるとよいか、記号で答えなさい。

① 解決したい問題について、現状や原因などを観点に沿って整理したい。

② 意見文の題材を探すため、情報を階層ごとに整理したい。

(2) よくでる「集中できる授業環境」について図Aを用いて整理する場合、次の情報は図のa〜dのどこに記入すればよいか、記号で答えなさい。

① 席順を自由に決めたため、仲の良い友達が近くの席にいるから。

② ○ 私語は減る。 △ 給食の時間や班別行動のときつまらない。

③ 授業中の私語が多くてうるさい。

④ 席順を、出席番号順に変える。

(3) よくでる 次の課題について図Bを用いて整理する場合、次の内容は図のe〜gのどこに記入すればよいか、記号で答えなさい。

① 神輿(みこし)のかつぎ手の減少 ② 地域の伝統の継承 ③ 祭りの縮小

2 次の熟語と同じ構成のものをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) ① 県立 ② 寒冷 ③ 明暗 ④ 植樹

ア 豊富 イ 読書 ウ 地震 エ 安否

(2) ① 上中下 ② 安心感 ③ 未開発

ア 不自由 イ 市町村 ウ 開会式

(3) ① 東西南北 ② 非科学的 ③ 体験学習

ア 海外旅行 イ 再入園者 ウ 花鳥風月

3 次の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

(1) ニュースのゲンコウを書く。

(2) 鉛筆(えんぴつ)のシンを削る。

(3) 手紙の文頭にハイケイと書く。

(4) 論説文のヨウシを二十字でまとめる。

(5) 休日はホウシ活動に携わる。

1 各5点

(1)	(2)		(3)	
①	①	③	①	③
A	b	a	g	f
②	②	④	①	
B	d	c	e	

★(2) 図Aの上から、「課題（現状）」→「原因」→「解決策」→「利点・問題点」の順で整理する。

★(3) 図Bは上にいくほど広く大きな問題、下にいくほど身近で具体的な問題。「地域の伝統」の中の一つが「祭り」、「祭りの問題」の中の一つが「神輿の問題」となる。

2 各3点

(1)		(2)		(3)	
①	①	①	①	①	③
ウ	イ	イ	ウ	ウ	ア
②	②	②	②	②	
ア	エ	ウ	イ	イ	
③		③		③	
		ア		ア	

3 各5点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
原稿	芯	拝啓	要旨	奉仕

★(1) ①主語と述語の関係。②意味が似ている漢字の組み合わせ。③意味が対になる漢字の組み合わせ。④下の漢字が上の漢字の目的や対象を示す。

6

教科書 P.42〜51

多様な視点から

クマゼミ増加の原因を探る

学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　/100点

1 教科書の「クマゼミ増加の原因を探る」を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) 次の——線の漢字をひらがなに直しなさい。

① 依然（教科書43ページ7行目）

② 舗装（教科書43ページ15行目）

③ 潜る（教科書44ページ6行目）

④ 越冬（教科書45ページ5行目）

(2) 「気温の上がった近年のほうが早く孵化(ふか)できる状態になる」（教科書46ページ9行目）とあるが、なぜ気温が上昇すると孵化が早まるのか。簡潔に説明しなさい。

(3) 孵化したセミが「一時間以内に地中に潜らないと、アリに襲われたり乾燥したりして死んでしまう」（教科書46ページ11〜12行目）ことから、セミが孵化するにはどのような条件が必要か。「土」という言葉を使って説明しなさい。

(4) よくでる 図6（教科書47ページ）からわかることを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア クマゼミは孵化する期間が他のセミより長い。

イ クマゼミは他のセミより孵化の時期が遅い。

ウ クマゼミは雨の日が最も多い期間に孵化する。

エ クマゼミの孵化は梅雨(つゆ)明け以降減少する。

オ クマゼミの孵化の時期は梅雨と重なる部分がある。

(5) 「仮説2」（教科書46ページ18行目）の検証結果から筆者が考えたことを、教科書46〜47ページから「続きの三文で抜き出し、初めの五字を答えなさい。（読点を含む）

(6) 「都市化の進んだ大阪市内」（教科書47ページ18行目）の土の特徴を説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、教科書47〜48ページから指定の字数で書き抜きなさい。

地表の整備と（①十字）による乾燥で（②二字）しており、雨で（③四字）ことがないため、セミが潜りにくい土になっている。

(7) 「四段階の硬さに押し固めた土を用意して」（教科書48ページ9行目）とあるが、何のためか。次の文の（　）にあてはまる言葉を、教科書47〜48ページから八字で書き抜きなさい。

クマゼミと他のセミの（　　）を比較するため。

(8) よくでる 図7（教科書48ページ）からわかることを、教科書47〜48ページから三十八字で抜き出し、初めの五字を答えなさい。

1 (1)各5点、(2)(3)12点 他各8点（(4)順不同・完答）

(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)			(7)		(8)
①	③	⑩セミは、気温が上がると体を作り始め、気温が上がってから一、二か月で孵化できる状態になるから。	⑩雨が降って土がぬかるみ軟らかくなること。	イ	つまり・気	①	②	③	硬い土に潜る	る能力	他のセミが
いぜん	もぐる			オ		ヒートアイランド現象	硬化	ぬかるむ			
②	④										
ほそう	えっとう										

★(3) 雨が降ることと、土が軟らかくなることの二点をおさえる。雨で土が軟らかくなることで、土に潜りやすくなる。

★(8) 図7から、土が硬くなると他のセミは土に潜れる割合がかなり低くなるのに対し、クマゼミだけは割合が高いことが読み取れる。

7

教科書 P.52〜53・58・59・234〜237

多様な視点から 思考のレッスン1 具体と抽象／漢字に親しもう2／文法への扉1 単語をどう分ける？

学習した日　　月　　日

光村 国語中2

時間25分　／100点

1 次の具体と抽象に関する問いに答えなさい。

(1) 次のa・bは、具体と抽象の組み合わせになっている。具体を表す言葉を選び、記号で答えなさい。

① a 飲み物　b 緑茶
② a 自転車　b 交通手段
③ a プレザーとズボン　b 男子中学生の制服
④ a 放課後の習い事　b 英会話教室

(2) 次の文の□にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

① かなこさんはとても□だ。例えば、かなこさんが学校を休んだ日の分のノートを貸してあげたら、わざわざお礼の手紙を添えて返してくれた。
② 祖母からもらった手ぬぐいは□している。具体的には、手や顔を拭くのに使ったり、寒いときに首に巻いたり、壊れやすいものを包んだりしている。
③ 私のおじは□の大工さんだ。具体的には、中学校を卒業してすぐに親方のもとに弟子入りして、もう四十年近く家づくりの現場で働き続けている。
④ 中山君はとても□。例えば、テストの日に隣の席の人が消しゴムを忘れてきたとき、とっさに自分の消しゴムを半分に割ってその片方を渡していた。
⑤ 兄の言うことはいつも□だ。例えば、家族みんなの分の食事をテーブルに並べ終わったころに、突然「今から隣町にそばを食べに行ってくる」などと言い出すのだ。

ア 熟練　イ 非道　ウ 重宝　エ 律儀　オ 機転がきく
カ 胸がおどる　キ やぶから棒　ク たぬき寝入り

2 次の――線のカタカナを漢字に直しなさい。

(1) 騒音が眠りをサマタげる。
(2) 新しいサッカーチームにカンユウされる。
(3) ハンザツな手続きにうんざりする。
(4) 私にとって、読書は最大のゴラクだ。
(5) テスト前なのでゲームをヒカえる。
(6) 迷惑をかけてしまい、大変イカンに思う。
(7) 手作りのクッキーは、ソボクな味がした。

3 次の――線の言葉の品詞をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 夕日が山を赤く照らしている。
(2) ノートの字をもっと上手に書きなさい。
(3) 熱が出た。だから、私は学校を休んだ。
(4) 雨が降ると、タイルの上はつるつると滑る。
(5) おはようございます、今日は寒いですね。
(6) 今日の日直は山田君だったと思います。

ア 動詞　イ 形容詞　ウ 形容動詞　エ 名詞
オ 副詞　カ 連体詞　キ 接続詞　ク 感動詞

1 (1)各3点、(2)各6点

(1)		(2)	
①	b	①	エ
②	a	②	ウ
③	a	③	ア
④	b	④	オ
		⑤	キ

(2) ①「律儀」はとても義理がたいこと。②「重宝」は便利でよく使うこと。③「熟練」は十分に経験を積んで巧みなこと。④「機転がきく」は物事に応じて、その場にふさわしい行動をとること。⑤「やぶから棒」はだしぬけに物事を行うさま。

2 各4点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
妨	勧誘	煩雑	娯楽	控	遺憾	素朴

3 各5点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
イ	オ	キ	ア	ク	エ

8

教科書 P.60〜66

情報社会を生きる メディアを比べよう／メディアの特徴を生かして情報を集めよう／「自分で考える時間」をもとう

学習した日　　月　　日

光村 国語中2

時間25分　／100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

同じ時間帯でも、①放送局が異なれば、扱うニュースは違ってきます。経済を大きく扱う放送局もあれば、スポーツを重点的に放送するところもあります。

さらに、東京の放送局と大阪の放送局では、取り上げるニュースのコウモクも違います。プロ野球のどの球団を大きく取り上げるかも、地域によって異なるでしょう。

これらの違いに加え、各担当者の判断や、時には好みによっても編集のしかたは変わってきます。

②だからといって、そのニュースが間違っているわけではありません。人間のすることですから、違いが出るのは当然なのです。

ただ、あってはならないことですが、時にはミスから③アヤマった情報が入り込むことや、どちらかの立場に肩入れした情報を伝えることもありえます。近年では、④「フェイクニュース」という、事実無根のにせのニュースもインターネット上に出現し、社会の混乱を招いています。

大事なことは、大量の情報に押し流されず、まずは情報を疑ってみること。情報を見たり聞いたりしたら、すぐにうのみにせず、「この情報をどう考えたらよいだろう。自分なら、違う取り上げ方をするかもしれない。」などと自分で考える時間をもつようにしましょう。また、一つのメディアのみではなく、複数のメディアに当たることも、情報を整理し、冷静に考える助けになります。

こうして、情報を注意深く受け止めるようになると、今度はあなたが情報を発信する立場になったときに、間違った情報を伝える危険性が薄らぐのです。

（教科書P.64〜65／池上彰「『自分で考える時間』をもとう」）

(1) ――線ⓐ・ⓑのカタカナを漢字に直しなさい。
(2) ――線①「放送局が異なれば、扱うニュースは違ってきます」とあるが、扱うニュースが違ってくる要因として「放送局の違い」の他にどのようなものがあるか。「〜の違い。」に続く形で、文章中の言葉を使って二つ答えなさい。
(3) ――線②「だからといって、そのニュースが間違っているわけではありません」とあるが、間違っていないのに扱うニュースに違いが出るのはなぜか。筆者の考えを文章中から一文で抜き出し、初めの五字を答えなさい。
(4) ――線③「フェイクニュース」とあるが、フェイクニュースなどの正しくない情報にだまされないためにはどのような姿勢が大切であると筆者は述べているか。文章中から二つ、十字と十三字で書き抜きなさい。
(5) この文章のタイトルは「『自分で考える時間』をもとう」だが、筆者はどのような場面で、どのようなことを考えることを勧めているか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各5点、(2)(4)各15点（順不同）、(3)10点、(5)20点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ⓐ 項目	(例)(放送する)地域の違い。	人間のする	情報を疑ってみること・複数のメディアに当たること	(例)情報を見たり聞いたりした場面で、その情報をどう考えるか、自分ならどう取り上げるかを考えてみること。
ⓑ 誤	(例)担当者の判断や好みの違い。			

(2) 第二段落の「さらに」、第三段落の「これらの違いに加え」という言葉に着目し、それぞれの段落から要因を読み取る。

(4) 第六段落に「大事なことは……」「また……」と二つの大事なことが並列されている。

(5) 16〜18行目に「……などと自分で考える時間をもつようにしましょう」とあるので、その部分を読み取る。「どのような場面」「どのようなことを考える」の二つの要素を入れ、「……こと」という文末にする。

9 言葉と向き合う 短歌に親しむ／短歌を味わう

教科書 P.68～71・72　光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる　正岡子規

四季の変化に富む日本では、季節の情感を大切にしながら短歌が作られてきました。この歌は「くれなゐ」（紅色）という色彩や「二尺」（約六十・六センチメートル）という長さによって、薔薇の芽を丁寧に描写しています。さらに、薔薇のとげを「針」と表現し、「針やはらかに」と続けたところが巧みです。新芽のとげのみずみずしく柔らかな様子が伝わってきます。「くれなゐの」「薔薇の芽の」「春雨の」と、助詞「の」が続いていることも、歌に優しさを添えています。

（教科書P.68～69／栗木京子「短歌に親しむ」）

(1) よくでる ――線①「薔薇の芽の針」とは何のことか。解説文中の言葉を使って八字で答えなさい。

(2) ――線②「季節の情感を大切にしながら短歌が作られてきました」とあるが、正岡子規のこの短歌はいつの季節の様子を詠んでいるか、答えなさい。

1 (1) 15点、(2) 10点

(2)	(1)
春	(例)薔薇の新芽のとげ

(1) 「芽」は「新芽」、「針」は「とげ」のこと。解説文中に「薔薇のとげ」「新芽のとげ」とある。

(2) 「春雨」は春に芽が出る頃、静かに細かく降る雨のこと。春、新芽の柔らかいとげに、静かで柔らかい雨が降っている様子を詠んでいる。

2 次のA～Cの短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ　若山牧水

B　不来方のお城の草に寝ころびて
空に吸はれし
十五の心　栗木京子

C　観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生

（教科書P.72／「短歌を味わう」）

(1) よくでる ――線①「かなしからずや」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　かなしくはない　イ　かなしくないのだろうか
ウ　かなしいだろう　エ　かなしいにちがいない

(2) 短歌の三行書きが特徴である、Bの作者名を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　馬場あき子　イ　石川啄木　ウ　与謝野晶子　エ　穂村弘

(3) ――線②「想ひ出」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

(4) よくでる A～Cの短歌で二句切れのものを二つ選び、記号で答えなさい。

(5) 次の鑑賞文にあてはまるものをA～Cから選び、記号で答えなさい。

内に秘めたせつない想いを、まさに今この瞬間も強く感じていることがまっすぐに伝わってくる短歌である。

2 各15点（(4)順不同・完答）

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
イ	イ	おもいで	A・C	C

(1) 「ず」は「……ない」という打ち消しの意味。「や」は「……（だろう）か」という疑問の意味。

(3) 語中の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」になる。

(4) Aは「かなしからずや」、Cは「回れよ回れ」の部分で切れている。

10 言葉と向き合う 言葉の力

教科書 P.74～77　光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

素人の気安さで、私はすぐに桜の花びらを二詰めて色を取り出したものだろうと思った。実際はこれは桜の皮から取り出した色なのだった。あの黒っぽいごつごつした桜の皮からこの美しいピンクの色がとれるのだという。志村さんは続けてこう教えてくれた。この桜色は、一年中どの季節でもとれるわけではない。桜の花が咲く直前の頃、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな、上気したような、えもいわれぬ色が取り出せるのだ、と。

私はその話を聞いて、体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。春先、もうまもなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裏に揺らめいたからである。花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの尖端だけ姿を出したものにすぎなかった。

考えてみればこれはまさにそのとおりで、木全体の一刻も休むことない活動の精髄が、春という時節に桜の花びらという一つの現象になるにすぎないのだった。しかしわれわれの限られた視野の中では、桜の花びらに現れ出たピンクしか見えない。たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はっと驚く。

このように見てくれれば、これは言葉の世界での出来事と同じことではないかという気がする。言葉の一語一語は、□一枚一枚だといっていい。一見したところ全然別の色をしているが、しかし本当は全身でその花びらの色を生み出している大きな幹、それを、その一語一語の花びらが背後に背負っているのである。そういうことを念頭におきながら、言葉というものを考える必要があるのではなかろうか。そういう態度をもって言葉の中で生きていこうとするとき、一語一語のささやかな言葉の、ささやかさそのものの大きな意味が実感されてくるのではなかろうか。

（教科書P.75～76／大岡信「言葉の力」）

(1) ――線ⓐ～ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線①「これ」が指す言葉を、文章中から二字で書き抜きなさい。

(3) ――線②「上気した……色」とあるが、この色は①いつ、②どこから、取り出したものか。①は十字、②は五字で文章中から書き抜きなさい。

(4) よくでる ――線③「体が一瞬……襲われた」とあるが、なぜか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　黒っぽい桜の皮からピンクの色がとれるのが意外だったから。
イ　花びらだけでなく全身でピンクに色づく桜の木に圧倒されたから。
ウ　志村さんの、桜の皮からピンク色を取り出す技術に感服したから。

(5) □に入る言葉を、文章中から五字で書き抜きなさい。

(6) ――線④「全身でその花びらの色を生み出している大きな幹」とは言葉の世界では何にあたるか。適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　言葉を生んだ社会　イ　言葉の本質　ウ　言葉を発する人間全体

(7) ――線⑤「そういう態度」とはどのような態度か、説明しなさい。

1 (1) 各7点、(3) 各12点、(7) 15点、他各10点

(1) ⓐ	(1) ⓑ	(1) ⓒ	(2)	(3) ①	(3) ②	(4)	(5)	(6)	(7)
煮	のうり	せいずい	桜色	桜の花が咲く直前の頃	山の桜の皮	イ	桜の花びら	ウ	(例)言葉の一語一語が、それを発する人を反映しているということを念頭において、言葉を考えていこうとする態度。

(3) ②花びらからではなく、黒っぽい皮からピンク色がとれる。

(4) 目に見える部分だけではなく、木全体でピンク色に染まっている桜を想像して、その様子に圧倒されたのだ。

(5) 花びらの色を生み出すのは木全体。同じように言葉を生み出すのは人間全体。

11

言葉と向き合う　言葉1　類義語・対義語・多義語／言葉を比べよう　もっと「伝わる」表現を目ざして

教科書 P.78～79・80～81

学習した日　　月　　日

光村 国語中2

時間25分　/100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の言葉の類義語をあとから選び、漢字に直して書きなさい。

① 自然　② 不安　③ 対等　④ 移転　⑤ 傾向
⑥ 賛成　⑦ 律儀（りちぎ）　⑧ 思慮　⑨ 失望　⑩ 原因

ドウイ　ラクタン　ゴカク　フウチョウ　ドウキ
ジッチョク　フンベツ　シンパイ　テンキョ　テンネン

(2) よくでる 次の言葉の対義語をあとから選び、漢字に直して書きなさい。

① 高価　② 悪化　③ 完敗　④ 片道　⑤ 集合
⑥ 苦痛　⑦ 禁止　⑧ 流動　⑨ 収入　⑩ 生産

オウフク　ショウヒ　コテイ　カイラク　コウテン
キョカ　カイサン　レンカ　シシュツ　アッショウ

(3) 次の――線の多義語の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

① 服にどろが付く。
② 砂場に足跡が付く。
③ 長年の問題にけりが付く。
④ 教室の明かりが付く。

ア 残る　イ ともる　ウ 付着する　エ 決着する

2 次の問いに答えなさい。

(1) 次の文の□には「用意」「準備」のどちらの言葉があてはまるか。あてはまる言葉を書きなさい。どちらともあてはまる場合は◎を書きなさい。

① 遠足で使う水筒を□する。
② お皿を並べて夕食の□をする。
③ 毎日遅くまで勉強し、試験の□をする。
④ 突然雨に降られたが、彼は□周到にかさを持って来ていた。
⑤ 走る前に、念入りに□運動をしておこう。

(2) 「用意」と「準備」の使い方に関する次の文章の□に入る言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

「用意」と「準備」は類義語で、「物事を行うために、必要な物や条件をととのえること」という共通の意味がある。「準備」には、「□」という意味もあり、「英会話を学び、留学に向けて準備をする」などと使う。

この意味では「用意」は使わない。また、「……周到」「……運動」など、それぞれに結びつきの強い言葉もある。

ア 将来起こることに対応するために態勢を整えること
イ 外出をするときに服装など身の回りを整えること
ウ 機械や道具などをすぐに使えるように整えておくこと
エ 今すぐ物事を行えるように協力体制を整えておくこと

1 各3点

(1)					(2)					(3)	
①	③	⑤	⑦	⑨	①	③	⑤	⑦	⑨	①	③
天然	互角	風潮	実直	落胆	廉価	圧勝	解散	許可	支出	ウ	エ
②	④	⑥	⑧	⑩	②	④	⑥	⑧	⑩	②	④
心配	転居	同意	分別	動機	好転	往復	快楽	固定	消費	ア	イ

2 (1)各5点、(2)3点

(1)			(2)
①	③	⑤	
◎	準備	準備	ア
②	④		
◎	用意		

(1) ③「試験の用意をする」という場合は、筆記用具をそろえる、受験票をかばんに入れる、など試験を行うのに必要なものをととのえる意味になる。③のように「勉強をして試験への態勢を整える」という意味では「準備」を使う。

(2) 「英会話を学び……」という例文は、アの意味で「準備」を使っている。(1)の③もこれと同じ。

12

人間のぎずな　盆土産（みやげ）①

教科書 P.92～105

学習した日　　月　　日

光村 国語中2

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 。どうもそいつが気にかかる。

ゆうべ、といっても、まだ日が暮れたばかりの頃だったが、町の郵便局から赤いスクーターがやって来たときは、[1]家中でひやりとさせられた。東京から速達だというから、B 父親の工事現場で事故でもあったのではないかと思ったのだ。普段、速達などには縁のない暮らしをしているから、[2]急な知らせには訳もなく不吉なものを感じてしまう。

ところが、封筒の中には、伝票のような紙切れが一枚入っていて、その裏に、濃淡の著しいボールペンの文字でこう書いてあった。

『盆には帰る。十一日の夜行に乗るすけ。土産は、えびフライ。油とソースを買っておけ。』

[3]祖母と、姉と、三人で、しばらく顔を見合わせていた。父親は、正月休みで帰ってきたとき、今年の盆には帰れぬだろうと話していたから、みんなはすっかりその気でいたのだ。

もちろん、父親が帰ってくれるのはうれしかったが、正直いって土産が少し[4]心もとなかった。えびフライというのは、まだ見たことも食ったこともない。姉に、どんなものかと尋ねてみると、

「どったらもんって……えびのフライだえな。えんびじゃねくて、えびフライ。」

姉は、にこりともせずにそう言って、[5]あとは黙って自分の鼻の頭でも眺めるような目つきをしていた。

（教科書P.93～94／三浦哲郎「盆土産」）

(1) ――線の漢字をひらがなに直しなさい。

(2) A に入る言葉を、文章中から五字で書き抜きなさい。

(3) ――線①「家中でひやりとさせられた」とあるが、なぜか。「～から。」に続く形で文章中から二十五字で書き抜きなさい。

(4) B に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア やっぱり　イ なるほど　ウ つまり　エ てっきり

(5) よくでる ――線②「急な知らせ」の内容を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。（句点・記号を含む）

(6) ――線③「祖母と、姉と、三人で、しばらく顔を見合わせていた」とあるが、なぜか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 父親の帰省が予想外で驚いたから。
イ 欲しかった土産なのでうれしかったから。
ウ 突然の知らせが迷惑だったから。

(7) よくでる ――線④「心もとなかった」とあるが、どのような気持ちか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 帰省の土産としてふさわしいものだと思う気持ち。
イ 父親より土産のほうが楽しみで、待ち遠しい気持ち。
ウ えびフライがどんなものなのか気になって仕方ない気持ち。
エ えびフライなどという高級なものを買う父親を心配する気持ち。

(8) ――線⑤「あとは黙って……目つきをしていた」とあるが、なぜか。次の文の（ ）にあてはまる言葉を、文章中から十五字で書き抜きなさい。

姉もえびフライを（　　）から。

1 (3)(8)各20点、他各10点(5)完答

(1)	(2)	(3)							(4)	(5) 初め	(5) 終わり	(6)	(7)	(8)		
いちじる	えびフライ	父親の工事	現場で事故	でもあった	のではない	かと思った		から。	エ	『盆には帰	ておけ。』	ア	ウ	まだ見たこ	とも食った	ことも ない

(2) 気になって仕方ないものは何かをあとから読み取る。

(3) 普段は縁のない速達なので、父親の身に何かあったのではと心配したのである。

(5) 東京から届いた速達の文面を抜き出す。

(6) 正月に帰省したときに、父親は盆には帰れぬだろうと言っていたのである。

(7) 「心もとない」とは「不安だ。気がかりだ」などの意味。ここでは、えびフライがどんなものなのか「気になって仕方ない」という意味。

(8) 姉としての見栄で、知らないとは言わないが、にこりともせずに返事をしている様子などからも、姉もえびフライを知らないことがわかる。

13 盆土産②

人間のさすな

教科書 P.92〜105　光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

四人家族に六尾では、配分がむつかしそうに思われたが、父親は明快に、①一お前と姉は二匹ずつ食え。おらと婆っちゃは一匹ずつでええ。」と言って、その代わりに、今朝釣ってきた雑魚をビールの肴にした。串焼きにしたまま囲炉裏の灰に立てておいたのを、あぶり直して、一尾ずつ串から抜いてはしょう油をかけて食った。ビールは三本あるから、□して、「あんまり食えば、そばのだしがなくならえ。」と言うと、父親は薄く笑って、「わかってらぁに。人のことは気にしねで、えびフライをじっくと味わって食え。」と言った。

揚げたてのえびフライは、口の中に入れると、しゃおっ、というような音を立てた。かむと、チミツな肉の中で前歯がかすかにきしむような、いい歯応えで、この辺りでくるみ味といっている えもいわれないうまさが口の中に広がった。

二尾も一度に食ってしまうのは惜しいような気がしたが、明日からは盆で、精進しなければならない。最初は、自分のだけ先になくならないように、横目で姉を見ながら調子を合わせて食っていたが、二尾目になると、それも忘れてしまった。

不意に、祖母がむせてせき込んだ。姉が背中をたたいてやると、小皿にえびのしっぽをはき出した。

「歯がねえのに、しっぽは無理だえなあ、婆っちゃ。えびは、しっぽを残すのせ。」

と、父親が苦笑いして言った。

そんなら、食う前にそう教えてくれればよかった。姉の皿を見ると、やはりしっぽは見当たらなかった。姉もこちらの皿を見ていた。顔を見合わせて、首をすくめた。

（教科書P.99〜100／三浦哲郎「盆土産」）

(1) ⓐ〜ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ①「お前と姉は……一匹ずつでええ」とあるが、ここからうかがえる父親の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 高級なえびフライなのでもったいないと思う気持ち。
イ 子供たちの喜ぶ顔が見たいという気持ち。
ウ 歯のない婆っちゃには一匹で十分だという気持ち。

(3) □に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア もじもじ　イ どきどき　ウ わくわく　エ はらはら

(4) よくでる ——線②「薄く笑って」とあるが、このときの父親の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 軽蔑する　イ 驚く　ウ あしらう　エ ほっとする

(5) ——線③「二尾目になると、それも忘れてしまった」とあるが、なぜか。

(6) よくでる ——線④「苦笑いして言った」とあるが、なぜか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って書きなさい。

祖母が（　　）ということを知らないで食べたから。

(7) ——線⑤「顔を……すくめた」ときの子供たちの気持ちを説明しなさい。

1 (1)各6点、(5)(6)各16点、(7)20点、他各10点

(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
ⓐ いろり	ⓑ 緻密	イ	エ	ウ	(例)おいしくて食べるのに夢中になったから。	(例)えびのしっぽは残すものだ	(例)食べる前に父親が教えてくれなかったせいで、二人ともえびのしっぽまで食べてしまい、気恥ずかしい気持ち。
ⓒ しょうじん							

(1) ⓐ〜ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ①「お前と姉は……一匹ずつでええ」とあるが、ここからうかがえる父親の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 高級なえびフライなのでもったいないと思う気持ち。
イ 子供たちの喜ぶ顔が見たいという気持ち。
ウ 歯のない婆っちゃには一匹で十分だという気持ち。

(3) □に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア もじもじ　イ どきどき　ウ わくわく　エ はらはら

(4) よくでる ——線②「薄く笑って」とあるが、このときの父親の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 軽蔑する　イ 驚く　ウ あしらう　エ ほっとする

(5) ——線③「二尾目になると、それも忘れてしまった」とあるが、なぜか。

(6) よくでる ——線④「苦笑いして言った」とあるが、なぜか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って書きなさい。

祖母が（　　）ということを知らないで食べたから。

(7) ——線⑤「顔を……すくめた」ときの子供たちの気持ちを説明しなさい。

★(2)「人のことは気にしねで、えびフライをじっくと味わって食え。」という言葉からもわかるように、おいしいものを食べて喜ぶ顔が見たいのである。

★(3) 父親が雑魚を食べ過ぎて、そばのだしに使う分がなくならないかと思い、心配したのである。

★(4) 息子の言葉を適当に受け流している。

★(6) 本当なら残すべきしっぽまで食べてしまったことに、半ばあきれている。

★(7) 祖母と同じく、えびフライの食べ方を知らなかったことに、照れくささを感じているのである。

14 字のない葉書

人間のさすな

教科書 P.106〜111　光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一週間ほどで、初めての葉書が着いた。紙いっぱいはみ出すほどの、威勢のいい赤鉛筆の大マルである。付き添っていった人の話では、地元婦人会が赤飯やぼたモチを振る舞って歓迎してくださったとかで、かぼちゃの茎まで食べていた東京に比べれば□A□にちがいなかった。

□B□、次の日からマルは急激に小さくなっていった。情けない黒鉛筆の小マルは、ついにバツに変わった。その頃、少し離れた所に疎開していた上の妹が、下の妹に会いに行った。

下の妹は、校舎の壁に寄り掛かって梅干しの種をしゃぶっていたが、姉の姿を見ると、種をぺっと吐き出して泣いたそうな。

まもなくバツの葉書も来なくなった。三月目に母が迎えに行ったとき、百日ぜきをわずらっていた妹は、しらみだらけの頭で三畳の布団部屋に寝かされていたという。

妹が帰ってくる日、私と弟は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した。小さいのに手をつけると吐る父も、この日は何も言わなかった。私と弟は、ひと抱えもある大物からてのひらに載るうらなりまで、二十数個のかぼちゃを一列に客間に並べた。これぐらいしか妹を喜ばせる方法がなかったのだ。

夜遅く、出窓で見張っていた弟が、

「帰ってきたよ！」

とサケんだ。茶の間に座っていた父は、はだしで表へ飛び出した。防火用水桶の前で、やせた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。私は父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た。

（教科書P.108〜109／向田邦子「字のない葉書」）

(1) ——線ⓐ〜ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる □A□に入る言葉を、文章中から三字で書き抜きなさい。

(3) □B□に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ところで　イ また　ウ ところが　エ つまり

(4) ——線①「下の妹は、……泣いたそうな」とあるが、ここからわかる下の妹の様子として最も適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 眠気　イ 空腹　ウ 自由　エ 怒り　オ 寂しさ

(5) よくでる ——線②「まもなくバツの葉書も来なくなった」とあるが、なぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

(6) よくでる ——線③「私と弟は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した」とあるが、なぜか。「〜から。」に続く形で文章中から二十字で書き抜きなさい。

(7) ——線④「茶の間に……飛び出した」とあるが、ここからわかる父の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 幼い子供がつらいときにそばにいてやれなかった後悔。
イ 幼い子供をつらい目にあわせた疎開先へのうらみ。
ウ 病気の子供を一刻も早く寝かせなくてはという親心。

(8) ——線⑤「私は父が、……初めて見た」とあるが、このとき「私」が父に対して感じた気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 威厳　イ 情けなさ　ウ 愛情深さ　エ 老い

1 (1)各6点、(5)(6)各16点、他各10点（(4)順不同・完答）

(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
ⓐ 餅	ⓑ しか	大マル	ウ	イ・オ	(例)百日ぜきをわずらっていたから。	これぐらいしか妹を喜ばせる方法がなかった から。	ア	ウ
ⓒ 叫								

(1) ⓐ〜ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる □A□に入る言葉を、文章中から三字で書き抜きなさい。

(3) □B□に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ところで　イ また　ウ ところが　エ つまり

(4) ——線①「下の妹は、……泣いたそうな」とあるが、ここからわかる下の妹の様子として最も適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 眠気　イ 空腹　ウ 自由　エ 怒り　オ 寂しさ

(5) よくでる ——線②「まもなくバツの葉書も来なくなった」とあるが、なぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

(6) よくでる ——線③「私と弟は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した」とあるが、なぜか。「〜から。」に続く形で文章中から二十字で書き抜きなさい。

(7) ——線④「茶の間に……飛び出した」とあるが、ここからわかる父の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 幼い子供がつらいときにそばにいてやれなかった後悔。
イ 幼い子供をつらい目にあわせた疎開先へのうらみ。
ウ 病気の子供を一刻も早く寝かせなくてはという親心。

(8) ——線⑤「私は父が、……初めて見た」とあるが、このとき「私」が父に対して感じた気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 威厳　イ 情けなさ　ウ 愛情深さ　エ 老い

★(2)「大マル」は妹が元気なことを意味するということを読み取る。

★(3) □B□の前では「大マル」だったのに、あとでは「マルは急激に小さくなっていった」とあることから、逆接の「ところが」が適当。

★(4) 梅干しの種をしゃぶっていることから「空腹」が、姉を見て泣いたことから「寂しさ」が読み取れる。

★(5) 病気で寝込んでいたため、葉書が出せなかったとわかる。

★(6) 大切に育てているかぼちゃを全部収穫して並べることで、妹の帰宅を歓迎したのだ。

★(7) 一秒でも早く幼い子供を抱きしめたかった父の気持ちを考える。

★(8) 子供を抱きしめ、泣きたい衝動を抑えられなかった父の愛情を目の当たりにしたのだ。

15

教科書 P.117〜119・120〜121・122

人間のきずな

言葉2 敬語／漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字／漢字に親しもう3

光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の——線の敬語の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

① 明日、こちらから参ります。
② 皆様のご参加をお待ちしております。
③ 温かい飲み物を準備するためにお湯をわかす。
④ 何を召しあがりますか。
⑤ 木村さんが発表します。
⑥ 今日は私が日直です。

ア 尊敬語　イ 謙譲語　ウ 丁寧語　エ 美化語

2 次の各文で、敬語の使い方が間違っている部分を直しなさい。

① 校長先生が、美術室の絵画を拝見している。
② それでは、遠慮なく召しあがります。
③ 社長が、社員の待つ会議室に参った。
④ よくでる 明日、父が先生にお会いになりたいそうです。

3 次の——線のカタカナにふさわしい漢字を下から選び、記号で答えなさい。

① よくでる そろそろ夜がアける。（ア 空　イ 開　ウ 明）
② よくでる 話の論点をカえる。（ア 変　イ 換　ウ 替）
③ シボウ分の多い食事。（ア 志望　イ 死亡　ウ 脂肪）
④ 都市のキンコウに住む。（ア 近郊　イ 金鉱）

4 次の——線のカタカナにふさわしい漢字を書きなさい。

(1) ① 田中さんをクラス委員にオす。
② エレベーターのボタンをオす。
(2) ① 布地を同じ幅にタつ。
② 最後の望みがタたれる。

1 各4点

①	②	③	④	⑤	⑥
イ	ア	エ	ア	ウ	ウ

2 各7点

①	②	③	④
(例)ご覧になっている(。)	(例)いただきます(。) (例)ちょうだいします(。)	(例)いらっしゃった(。) (例)お越しになった(。) (例)お見えになった(。)	(例)お会いしたい (例)お目にかかりたい

3 各5点

①	②	③	④
ウ	ア	ウ	ア

4 各7点

(1) ①	(1) ②	(2) ①	(2) ②
推	押	裁	絶

16

教科書 P.124〜131

論理を捉えて

モアイは語る——地球の未来

光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ラノ・ララクの石切り場からは、未完成のモアイ像が約二百六十体も発見された。なかには作りかけの二百トン近い巨像もあった。運ぶ途中で放棄されたモアイも残されている。おそらく森が消滅した結果、海岸までモアイを運ぶことができなくなったのであろう。

A、モアイを作った文明は、いったいどうなったのだろうか。

かつて島が豊かなヤシの森に覆われていた時代には、土地も肥え、バナナやタロイモなどの食料も豊富だった。しかし、森が消滅するとともに、豊かな表層土壌が雨によって侵食され、流失してしまった。火山島はただでさえ岩だらけだ。その島において、表層土壌が流失してしまうと、もう主食のバナナやタロイモを栽培することは困難となる。おまけに木がなくなったため船を造ることもままならなくなり、たんぱく源の魚を捕ることもできなくなった。

こうして、イースター島はしだいに食料危機に直面していくことになった。その過程で、イースター島の部族間のコウソウもヒンパツした。そのときに倒され破壊されたモアイ像も多くあったと考えられている。そのような経過をたどり、イースター島の文明は崩壊してしまった。モアイも作られることはなくなった。文明を崩壊させた根本的原因は、B の消滅にあったのだ。千体以上のモアイの巨像を作り続けた文明は、十七世紀後半から十八世紀前半に崩壊したと推定されている。

イースター島のこのような運命は、私たちにも無縁なことではない。日本列島において文明が長く繁栄してきた背景にも、国土の七十パーセント近くが森で覆われているということが深く関わっている。日本列島だけではない。地球そのものが、森によって支えられているという面もある。森林は、文明を守る生命線なのである。

（教科書P.127〜128／安田喜憲「モアイは語る——地球の未来」）

(1) ——線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。
(2) ——線①「未完成のモアイ像」が石切り場から発見されたのはなぜか。「〜から。」に続く形で文章中から二十九字で書き抜きなさい。（読点を含む）
(3) A に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア そして　イ では　ウ つまり　エ しかし
(4) ——線②「森が消滅」とあるが、これによってできなくなったことは何か。食料調達という観点から、文章中の言葉を使って二つ答えなさい。
(5) よくでる ——線③「イースター島の文明」とあるが、これを言いかえている言葉を、文章中から九字で書き抜きなさい。
(6) B に入る言葉を、文章中から一字で書き抜きなさい。
(7) よくでる ——線④「イースター島のこのような運命」とあるが、どのような運命か。内容を説明しなさい。

1 (1)各5点、(7)20点、他各10点　(4)順不同

(1) ⓐ	(1) ⓑ	(1) ⓒ	(1) ⓓ	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
きょぞう	しんしょく	抗争	頻発	森が消滅した結果、海岸までモアイを運ぶことができなくなったから。	イ	(例)(主食の)バナナやタロイモの栽培。 (例)(たんぱく源の)魚を捕ること。	モアイを作った文明	森	(例)森の消滅で、食料危機に陥り、文明が崩壊したという運命。

(1) 森が消滅し、海岸まで運ぶことができなくなったモアイが、石切り場に放置されたのである。
(4)(5) 第三段落に書かれている。
(6) 第二段落から抜き出す。森が消滅したことで食料危機が起こり、それが部族間コウソウの原因となった。
(7) 第三・四段落をまとめる。

17

教科書 P.132～133・138

学村 国語中2

論理を捉えて

思考のレッスン2 根拠の吟味／漢字に親しもう4

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の文章は、根拠を示した意見である。――線の根拠の問題点をあとから選び、記号で答えなさい。

① 学校の昼休みは、読書をするよりも外で遊んだ方がよい。「外で遊ぶ方が気分転換になる」と同じ班の人全員が言っているからだ。

② 中学校の音楽の授業では、リコーダーではなくギターを教えるべきだ。ギターの方が音楽の楽しさを感じられるからだ。

③ 中学生は全員英会話スクールに通うべきだ。習い事をすることで将来役に立つこともあるからだ。

ア 根拠が主観や思い込みに基づいている。

イ 挙げられた根拠に例外がある。

ウ 意見と根拠の結び付きが弱い。

(2) よくでる 次の意見を支える根拠として、最も説得力の高いものをあとから選び、記号で答えなさい。

① 運動会では徒競走よりもクラス対抗リレーを行うべきだ。

ア 運動会で行う競技の中では、リレーが一番盛り上がるからだ。

イ 私のクラスでは「リレーの方がよい」という意見が多かったからだ。

ウ 個人競技よりも団体競技の方が、クラスの団結力が強まるからだ。

エ 走るのが得意な人は、リレーの方が力を発揮できるからだ。

② 試験勉強は夜遅くまでやるよりも、朝早く起きてやる方がよい。

ア 私の通う中学校では、在校生の七割が夜型の勉強習慣だと回答しており、それは改善すべきだからだ。

イ 朝型の生活習慣にした方が朝からしっかり頭が働くので、午前中から行われる試験に有利だからだ。

ウ 姉が受験生だったとき、朝早く起きて勉強することを習慣にしていたら、志望校に合格できたからだ。

エ 前回の試験の際、私は夜遅くまで試験勉強をしていたが、眠たくてあまり集中できなかったからだ。

1 各10点

(1) ①	(1) ②	(1) ③	(2) ①	(2) ②
イ	ア	ウ	ウ	イ

(1) ①同じ班の人の意見だけを根拠にしているので、他の班の人は考えが異なるかもしれない。③習い事をすることがよいからといって、「全員英会話スクールに通うべき」という結論になるのは飛躍している。習い事は他にもたくさんある。

(2) ①アは根拠が主観に基づいている。イは運動会は学校全体で行うものなので、クラスの意見だけを根拠にしたのでは根拠に例外がある。エは根拠が思い込みに基づいている。②アはなぜ夜型だと「改善すべき」なのかがわからない。ウとエは姉や私の一人だけの体験が根拠になっているので、根拠として弱い。

2 次の問いに答えなさい。

(1) 次の――線のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

① 上司の話はいつもシサに富んでいる。

② 縄文時代の人たちは、シュリョウで食べ物を得ていた。

③ 彼の話を聞いて、長年のジュバクが解けた気がした。

④ 外国で内戦が勃発したという記事を読んだ。

⑤ 国から委嘱されて研究開発を行っている。

(2) 次の□に合う（　）の読み方の漢字を、（　）から選んで書きなさい。

① （ショウ）舞台で着る衣□を選ぶ。〈粧・装〉

② （テイ）有名作家の□宅の前を通る。〈邸・抵〉

③ （オク）自分の□病な性格を直したい。〈臆・憶〉

④ （ガイ）□当する項目に丸をつける。〈骸・該〉

⑤ （カイ）目氏こも名ると□暮で書いて下さい。〈皆・階〉

2 各5点

(1) ①	(1) ③	(1) ⑤	(2) ①	(2) ③	(2) ⑤
示唆	呪縛	いしょく	装	臆	楷
② 狩猟	④ ぼっぱつ		② 邸	④ 該	

18

教科書 P.144～145

学村 国語中2

論理を捉えて

月夜の浜辺

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

月夜の浜辺　中原中也

①月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
②思つたわけでもないが
なぜだかそれを捨てるに忍びず

僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
③月に向つてそれは抛れず
浪に向つてそれは抛れず

僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、拾つたボタンは
指先に沁み、心に沁みた。

月夜の晩に、拾つたボタンは
どうしてそれが、捨てられようか？

（教科書P.144～145／中原中也「月夜の浜辺」）

(1) よくでる ――線①「月夜の晩に、ボタンが一つ／波打際に、落ちてゐた」とあるが、この二行を四つに区切って読んだときの音の数を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 五音・七音・五音・七音　イ 七音・七音・七音・五音

ウ 五音・七音・七音・五音　エ 七音・七音・五音・五音

(2) ――線②「思つた」は音読するときどのように読むか。すべてひらがなで答えなさい。

(3) ――線③「月に向つてそれは抛れず／浪に向つてそれは抛れず」とあるが、ここで用いられている表現技法を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法　イ 反復　ウ 倒置　エ 対句

(4) 作者の月夜の晩に拾ったボタンに対する思いを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、詩の中から指定の字数で書き抜きなさい。

ボタンが（(1)五字）とか、（(2)三字）とかできない。

1 各20点

(1)	(2)	(3)	(4) ①	(4) ②
イ	おもった	エ	心に沁みた	捨てる

(1) 「月夜の晩に」「ボタンが一つ」「波打際に」「落ちてゐた」と区切って読む。この詩は基本的に五音と七音の組み合わせで書かれているため、リズムのある詩になっている。

(2) 語中の「つ」は「っ」と読む。

(3) 「月」と「浪」が対になり、それ以外の表現は同じである。

(4) ②最後の一行「どうしてそれが、捨てられようか？」は「いや、捨てられるはずがない」という意味の反語表現である。

19

教科書 P.150

いにしえの心を訪ねる

平家物語

光村 国語中2

学習した日　　月　　日

時間25分　　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①祇園精舎の鐘の[A]、諸行無常の響きあり。②沙羅双樹の[B]の色、③盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢の[C]。たけき者もつひには⑦滅びぬ、ひとへに風の前の塵に[D]。

祇園精舎の鐘の響きは、万物流転の常ならぬ世のさまを伝え、白々と散る沙羅双樹の[B]の姿は、栄える者の必ず滅びゆく道理を告げる。権におごる者の運命は、春の夜の夢のように[　]。武に強い人の身の上もまた、ついには[　]こと、ひとえに風に吹き飛ぶ塵のようなものだ。

（教科書P.150／「平家物語」）

(1) この物語は何という一門の興亡のありさまを語った物語か。次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 源氏　イ 平家　ウ 藤原氏　エ 足利氏

(2) 「平家物語」では、何年にわたる(1)の一門のありさまを語っているか。次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 約十年　イ 約三十年　ウ 約五十年　エ 約百年

(3) このような物語を何と呼ぶか。次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 軍記物語　イ 説話物語　ウ 歴史物語　エ 歌物語

(4) よくでる 「平家物語」を語ったのは誰か。漢字で書きなさい。

(5) ——線①～④・⑥を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(6) □A・Bに入る言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア 草　イ 笛　ウ 音　エ 枝　オ 花　カ 声

(7) よくでる ——線⑤「久しからず」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 久しぶりだ　イ 時間をかけた　ウ はかない

(8) [C]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア ごとき　イ ごとし　ウ ごとく

(9) ——線⑦「滅びぬ」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 消えうせる　イ 消えうせない　ウ 消えうせるかもしれない

(10) [D]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 似たり　イ 等し　ウ 同じ

1 (5)各6点、(7)～(10)各10点、他各5点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)					(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
イ	ウ	ア	琵琶法師	①	②	③	④	⑥	A カ / B オ	ウ	イ	ア	ウ
				ぎおんしょうじゃ	しゃらそうじゅ	じょうしゃひっすい	あらわす	ついには					

★(1) 中心に描かれているのは平氏である。
★(3) 歴史上の合戦を題材にした物語を軍記物語という。歴史物語は主に宮中を中心とした歴史を書いたものである。
★(6) 鐘や楽器の音色を「声」ともいう。
★(7) 「久しからず」は打ち消しの「ず」があるので、久しく(長く)はない＝はかない、となる。
★(9) 「滅びぬ」の「ぬ」は打ち消しではなく、完了の意味であることに注意。

20

教科書 P.151～157

いにしえの心を訪ねる

扇の的——「平家物語」から

光村 国語中2

学習した日　　月　　日

時間25分　　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ⅰ ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、①をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は、揺り上げ②揺りすゑタダヨへば、③扇もくしに定まらずひらめいたり。沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも④晴れならずといふことぞなき。与一目をふさいで、

「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくは、あの扇の真ん中射させてたばせたまへ。これを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、人に二度面を⑤向かふべからず。いま一度本国へ迎へんとおぼしめさば、この矢はづさせたまふな。」

と心のうちに祈念して、目を見開いたれば、⑥風も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなつたりける。

（教科書P.152～153／「扇の的——『平家物語』から」）

Ⅱ 時は二月十八日、午後六時頃のことであったが、折から北風が激しく吹いて、岸を打つ波も高かった。舟は、揺り上げられ揺り落とされ上下にタダヨっているので、竿頭の扇もそれにつれて揺れ動き、しばらくも静止していない。沖には平家が、海上一面に舟を並べて見物している。陸では源氏が、馬のくつわを連ねてこれを見守っている。どちらを見ても、まことに[A]。

与一は目を閉じて、

「南無八幡大菩薩、我が故郷の神々の、日光の権現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神、願わくは、あの扇の真ん中を射させたまえ。これを射損じれば、弓を折り、腹をかき切って、再び人にまみえる心はありませぬ。いま一度本国へ帰そうとおぼしめされるならば、この矢を外させたもうな。」

と念じながら、目をかっと開いて見ると、[B]。

(1) ——線ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ——線①・②・⑤を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(3) よくでる ——線③「扇もくしに定まらずひらめいたり」とあるが、舟が揺れてこのようになる理由がわかる部分を、Ⅰの中から二十一字で書き抜きなさい。（読点を含む）

(4) よくでる 与一を見守る平家と源氏の様子を、Ⅰの中からそれぞれ一文で書き抜きなさい。

(5) ——線④「晴れ……なき」の口語訳として[A]に入るものを選びなさい。
ア 天候が良好だ　イ 気が晴れない　ウ 晴れがましい情景である

(6) よくでる 与一の覚悟が最もよく表れた一文をⅠの中から抜き出し、初めの五字を答えなさい。

(7) ——線⑥「風も……ける」の口語訳として[B]に入る言葉を答えなさい。

1 (1)(2)各5点、(3)(6)(7)各15点、他各10点

(1)	(2)	(3)	(4)		(5)	(6)	(7)
ⓐ おもて / ⓑ 漂	① おりふし / ② ゆりすえ / ⑤ むこう	をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり	平家	源氏	ウ	これを射損	(例)風も少し収まり、的の扇も静まって射やすくなっていた
			沖には平家、舟を一面に並べて見物す。	陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。			

★(1) 風のせいで波が高く、的の扇がある舟も揺れるのだ。
★(5) 対応する古文を直訳すれば「晴れがましくないということがない」。源平の武士の様子の見事さを表している。
★(6) 非常に難しい的であるが、射ることができなければ、武士の誇りにかけて死のうと思っている。

21

教科書 P.158〜160

いにしえの心を訪ねる

仁和寺にある法師——「徒然草」から

学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　100点

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

仁和寺にある法師、年寄るまで*石清水を拝まざりければ、①心うく覚えて、あるとき思ひたちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。

さて、かたへの人にあひて、④年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、⑤尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず。」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。（第五十二段）

注　*石清水八幡宮のこと。

（教科書P.158〜159／兼好法師「仁和寺にある法師——『徒然草』から」）

(1) ——線①・③・⑥の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

① ア 道順を覚えて　イ 残念に思われて　ウ 心がうき立って

③ ア 仲間　イ 道で会った人　ウ 石清水八幡宮の人

⑥ ア 怒られそうだが　イ 知りたかったが　ウ 不安だったが

(2) ——線②「かばかりと心得て」を、必要な言葉を補って口語訳しなさい。

(3) よく出る ——線④「年ごろ思ひつること」とは何か、答えなさい。

(4) ——線⑤「尊くこそおはしけれ」の「こそ」は「尊く」を強調し、文末が変化している。このような表現を何というか、答えなさい。

(5) ——線⑦「山までは見ず」とあるが、法師がそのようにした理由を説明しなさい。

(6) 古文中の「　」の言葉は誰が言っているか。文章中から八字で書き抜きなさい。

(7) よく出る 法師の失敗を説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。（記号を含む）

法師は、（①八字）を（②三字）と思い込んで、本物の（②）を参拝せずに帰ってしまった。

(8) よく出る この話において作者が最も言いたい内容が書かれた一文を、古文中から書き抜きなさい。

(9) 「徒然草」の成立年代と分類の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 平安時代後期の説話　イ 鎌倉時代初期の物語

ウ 江戸時代初期の紀行文　エ 鎌倉時代後期の随筆

1 (1)(6)各5点、他各10点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		(8)	(9)
① イ ③ ア ⑥ イ	(例)石清水八幡宮はこれだけのものと思い込んで	(例)石清水八幡宮を拝むこと。	係り結び	(例)神に参拝することこそ本来の目的だと考えたから。	仁和寺にある法師	① 極楽寺・高良など ② 石清水		少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。	エ

(1) ⑥「ゆかし」は「見たい。知りたい」などの意味。

(2) 石清水八幡宮が山の上にあることを知らず、極楽寺・高良が石清水であると思い込んだ。同様に「何事かありけん」「神へ参るこそ本意なれ」「とぞ言ひける」も係り結び。

(4) 「神へ参るこそ本意なれ」「とぞ言ひける」も係り結び。

(5) 極楽寺・高良を石清水だと誤解した法師は、山に登ることは本来の目的から外れると考えたのだ。

(6) 古文では、会話の主語が省略されることがよくあるので、注意して読み進める。

(8) どんなことにも、その道の先導者はあってほしいという作者の考えが述べられている。

22

教科書 P.162〜168

いにしえの心を訪ねる

漢詩の風景①

学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　100点

1 次の漢詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

春暁　孟浩然

春眠暁を覚えず　春眠
処処啼鳥を聞く　不覚暁
夜来風雨の声　処処聞啼鳥
花落つること知る多少　夜来風雨声　花落知多少

（教科書P.162／「漢詩の風景」）

(1) ——線の漢字をひらがなに直しなさい。

(2) このように一句五字、四句から成る漢詩を何というか。

(3) よく出る ——線①「春眠暁を覚えず」とあるが、このように表した作者の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 春の眠りの心地よさ　イ 寝過ごしたあせり　ウ 老いの実感

(4) ——線②・⑤に、書き下し文を参考にして送り仮名と返り点をつけなさい。

(5) ——線③「処処」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ざわざわと　イ あちらでもこちらでも　ウ ときどき

(6) ——線④「啼鳥を聞く」とあるが、作者はどこでこれを聞いているか。

2 次の漢詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

絶句　杜甫

江は碧にして鳥は逾よA白く　江碧鳥逾A白
山は青くして花は然えんと欲す　山青花欲然
今春看す又過ぐ　今春看又過
何れの日か是れ帰年ならん　何日是帰年

（教科書P.164／「漢詩の風景」）

(1) ——線の漢字をひらがなに直しなさい。

(2) Aに入る色を表す漢字を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 青　イ 黒　ウ 白　エ 赤

(3) ——線①「看す又過ぐ」について、次の問いに答えなさい。

① 「看す」の読み方を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ますます　イ うすうす　ウ やすやす　エ みすみす

② この句の意味を答えなさい。

(4) よく出る ——線②「何れの日か是れ帰年ならん」とあるが、ここからわかる作者の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 故郷に帰る日をいつかいつかと待ち望んでいる望郷の思い。

イ 時がたつのが早過ぎて何もできなかったという後悔。

ウ さまざまなことがあった一年に対する感慨。

エ 美しい自然のあるこの土地から去りたくないという思い。

1 (1)(2)(4)各5点、他各10点

(1)	(2)	(3)	(4)		(5)	(6)
あかつき	五言絶句	ア	② 不覚暁	⑤ 聞啼鳥	イ	(例)寝床の中。

(2) 四句で成るものを絶句、八句で成るものを律詩という。

(3) 夜が明けたことも気づかないぬくぬくとした眠り。

(4) レ点は一字返る。一・二点は二字以上返る。

2 (1)5点、(3)②15点、他各10点

(1)	(2)	(3)		(4)
また	ウ	① エ	② (例)みるみるうちにまた過ぎてゆく。	ア

(2) この漢詩は「碧（緑）・白・青・然（赤）」という色彩の鮮やかさも特徴の一つである。

(4) 「帰年ならん」は「帰れるのだろうか」という意味。美しい景色を見ても、故郷に帰りたいという強い思いがある。

23

教科書 P.162～168

いにしえの心を訪ねる

漢詩の風景②

光村 国語中2

学習した日　　月　　日

時間25分　　/100点

1 次の漢詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る　李白

故人西のかた辞し黄鶴楼
煙花三月下る揚州に
孤帆の遠影碧空に尽き
唯だ見る長江の天際に流るるを

故人西辞黄鶴楼
煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空尽
唯見長江天際流

（教科書P.165／「漢詩の風景」）

(1) ——線の漢字をひらがなに直しなさい。

(2) このように一句七字、四句から成る漢詩を何というか。

(3) この漢詩に詠まれた季節はいつか。また、それがわかる部分を漢詩から四字で書き抜きなさい。

(4) ——線①「孟浩然」、②「李白」はそれぞれどこにいるか、答えなさい。

(5) ——線③「故人」とあるが、意味と、指す人物を答えなさい。

(6) □A・Bに入る書き下し文を、訓読文を参考にして書きなさい。

(7) ——線④「碧空」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 夕空　イ 夜空　ウ 明け方の空　エ 青空

(8) ——線⑤「唯だ見る長江の天際に流るるを」とあるが、ここからわかる作者の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 悠久の自然に対する畏敬
イ 一人残された孤独と寂しさ
ウ 自然に対する人間の無力感
エ 長江の流れの美しさへの感動

(9) この漢詩に用いられている表現技法として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 対句法　イ 擬人法　ウ 倒置法　エ 体言止め

(10) この漢詩では、三つの句の末尾が韻を踏んでいる。韻を踏んでいる漢字を、訓読文からそれぞれ一字ずつ書き抜きなさい。

1 (1)～(4)(6)各5点、他各10点（(10)順不同・完答）

(1)	(2)	(3) 季節	(3)	(4) ①	(4) ②	(5) 意味	(5) 人物	(6) A	(6) B	(7)	(8)	(9)	(10)
ろう	七言絶句	(晩)春	煙花三月	(例)舟の上。	(例)黄鶴楼の上。	(例)古くからの親友。	孟浩然	黄鶴楼を辞し	揚州に下る	エ	イ	ウ	楼州流

(5) 作者は旧友の見送りに来ている。

(7)「孤帆の遠影碧空に尽き」とは、川と空が接しているところまで舟が進んで行く様子を表している。

(8) 友の姿が見えなくなるまで見送り、大自然の中に一人残されてしまった孤独と、友と別れる寂しさを読み取る。

(9)(10) 第四句が倒置となっている。「楼」「州」「流」はいずれも共通する音がある。

24

教科書 P.170～179

価値を語る

君は「最後の晩餐」を知っているか①

光村 国語中2

学習した日　　月　　日

時間25分　　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

レオナルドは、どうしてこんなにもうまく、いろいろな手を描くことができたのだろうか。実は、彼は人体の解剖を通して骨格や筋肉の研究をし、人の体がどのような仕組みでできているかを知り尽くしていた。□、手だけでなく顔の表情や容貌も、一人一人の心の内面までもえぐるように描くことができた。

①さらに注目してほしいのは、ここに描かれている室内の壁や天井だ。ⓐ壁のタピスリーや天井の格子模様を見てみよう。壁がだんだんⓑ狭くなって、タピスリーも奥にいくほど小さくなる。これが②遠近法だ。レオナルドは、絵画の遠近法を探究し、それをこの絵で完成させた。この絵には、遠くのものは小さく見えるという、遠近法の原理が使われている。室内の空間を、遠くにいくにつれて小さく描くことで、部屋に奥行きが感じられるようになる。

遠近法には、さらに別の効果もある。壁のタピスリーや天井の格子など、奥に向かって③狭まっていく線を延ばしていくと、その線は一つの点に集まる。これを遠近法の消失点というが、なんと、その点の位置が、キリストの額なのだ。③これにより、絵を見る人の視線は自然とキリストに集まっていく。この絵の主人公は、キリスト。誰が見ても、④そう思わせる効果がある。遠近法という絵画の技法が、そこに描かれた人物たちの物語を、ドラマチックに演出している。

（教科書P.176／布施英利「君は「最後の晩餐」を知っているか」）

(1) ——線ⓐ～ⓒの漢字をひらがなに直しなさい。

(2) □に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア では　イ このように　ウ しかし　エ だから

(3) ——線①「さらに注目してほしいのは、ここに描かれている室内の壁や天井だ」とあるが、なぜそこに注目させたいのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(4) ——線②「遠近法」とあるが、この手法を具体的に説明している一文を、——線②よりあとの文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。（句点を含む）

(5) ——線③「これ」が指す内容を具体的に説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

遠近法の（①三字）の（②二字）が、（③四字）の（④一字）であること。

(6) ——線④「そう思わせる効果」とあるが、どう思わせる効果か。文章中の言葉を使って説明しなさい。

1 (1)(2)各5点、(3)(6)15点、他各10点（(4)完答）

(1) ⓐ	(1) ⓑ	(1) ⓒ	(2)	(3)	(4) 初め	(4) 終わり	(5) ①	(5) ②	(5) ③	(5) ④	(6)
てんじょう	せま	せば	エ	(例)壁のタピスリーや天井の格子模様に、遠近法の特徴がよく表れているから。	室内の空間	になる。	消失点	位置	キリスト	額	(例)この絵の主人公はキリストであると思わせる効果。

(3) この一文は遠近法を説明するための導入である。

(4)(5) 直前の内容を確認する。

(6)「誰が見ても」とあることに注意する。この絵を誰が見ても思うことである。

25

教科書 P.176～179

価値を語る

君は「最後の晩餐」を知っているか②

学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「最後の晩餐」の修復が終了したのは、一九九九年五月のことだ。それまでかびやほこりで薄汚れて、暗い印象のあった絵から、鮮やかな色彩がよみがえった。しかし、①絵の細かいところはわからない。レオナルドが描いた細部は、既に剝がれ落ちて、消えてなくなっていた。②修復の作業は、あくまで汚れを落とすことと、現状の絵をそのままに保護することだけだ。だから修復された絵には、もう細かい描写はない。今、私たちが見ることができるのは、そんな「最後の晩餐」である。

ところが、実際に修復を終えた「最後の晩餐」の前に立って、その絵を眺めると、③文句がないほどに魅力的なのだ。確かに細部は落ちて、消えてなくなっている。［A］、そのためにかえって、絵の「全体」がよく見えるようになった。人物の輪郭が作る形。その連なり。絵の構図がもっている画家の意図。［B］、レオナルドが、絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが、とてもよく見えてくる。［C］、いきなり「かっこいい。」と思えるのだ。

逆に、絵が完成したばかりの頃、それを見た人たちは、細部の描き込みのすごさに息をのんで、感嘆したのかもしれない。しかし、④そういうものに目を奪われて、この絵がもっている⑤本当の魅力が「見えなかった」。そんなことがあったのではないか。そして細部が剝げ落ち、ぼんやりした形の連なりだけが残った。修復は、そのような「全体」をより明快に見えるようにした。だとしたら、本当の「最後の晩餐」は、二十一世紀の私たちが初めて見たのかもしれない。レオナルドが描きたかったのは⑥「それ」なのだ。

（教科書P.178～179／布施英利「君は『最後の晩餐』を知っているか」）

(1) ――線の漢字をひらがなに直しなさい。

(2) ――線①「絵の細かいところはわからない」とあるが、なぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

(3) ――線②「修復の作業」とあるが、その具体的な内容を二つ、文章中から書き抜きなさい。

(4) よくでる ――線③「文句が……なのだ」とあるが、どのような点が「魅力的」なのか。「～点。」に続く形で文章中から三十九字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。（読点を含む）

(5) ［　］A～Cに入る言葉の順序として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア だから―しかし―そして　イ しかし―つまり―だから
ウ そして―つまり―また　エ つまり―しかし―だから

(6) ――線④「そういうもの」が指す内容を、文章中から書き抜きなさい。

(7) ――線⑤「本当の魅力」を文章中の言葉を使って三つ答えなさい。

(8) よくでる ――線⑥「それ」が指すものを、文章中から十字で書き抜きなさい。（句読点を含む）

1 (1)(4)各5点（(4)完答）、他各10点（(3)(7)順不同）

(1)	りんかく	(2)	(例)細部は既に剝がれ落ちて消えてなくなっていたから。	(3)	・汚れを落とすこと ・現状の絵をそのままに保護すること	(4)	終わり：見えてくる 初め：レオナルド 点。	
(5)	イ	(6)	細部の描き込みのすごさ	(7)	・(例)人物の輪郭が作る形。 ・(例)人物の輪郭が作る形の連なり。 ・(例)絵の構図がもっている画家の意図。	(8)	本当の「最後の晩餐」	

(1) 同じ段落の最後に、「いきなり『かっこいい。』と思える」とあることに注目する。

(4) 「最後の晩餐」が完成したばかりの当時の人々は、絵の何に目を奪われたか、筆者が想像している箇所を確認する。

(7) 直前の段落で、修復を終えたことで見えてきた「最後の晩餐」の本当の魅力が具体的に述べられている。

(8) レオナルドが描きたかったのは、今私たちが見ている「最後の晩餐」なのだと筆者は主張している。

26

教科書 P.186・187・238～243

価値を語る

漢字に親しもう5／文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。

学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　/100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) 次の――線の漢字をひらがなに直しなさい。

① 山の奥に洞窟がある。
② 乳飲み子を抱く母親。
③ 昔の面影を探す。
④ 冥王星の位置を調べる。
⑤ 汎用計算機を開発する。

(2) 次の――線のカタカナを漢字に直しなさい。

① この辺りはシツジュンな土地だ。
② 胃液がブンピツされる。
③ なだらかなキュウリョウ地帯。
④ ヒヨクな土地に恵まれる。
⑤ ヤナギの木を植える。

2 次の問いに答えなさい。

(1) 次の用言を活用したとき、□に入る文字を答えなさい。（一字とは限らない）

ア 読む
① 読□ない　② 読□ます　③ 読□。　④ 読□とき　⑤ 読□ば　⑥ 読□！　⑦ 読□う　⑧ 読□だ

イ 捨てる
① 捨□ない　② 捨□ます　③ 捨□。　④ 捨□とき　⑤ 捨□ば　⑥ 捨□！

ウ 美しい
① 美し□う　② 美し□た　③ 美し□。　④ 美し□とき　⑤ 美し□ば　⑥ 美し□ない

エ 同じだ
① 同じ□う　② 同じ□た　③ 同じ□。　④ 同じ□ば　⑤ 同じ□ない　⑥ 同じ□なる

(2) よくでる 次の――線の活用の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

A 私を見るなり、彼は腰を上げ、握手をしてにっこり笑った。
B 過ぎていく一年を振り返る時間もないまま、新しい年が来る。

ア 五段活用　イ 上一段活用　ウ 下一段活用
エ カ行変格活用　オ サ行変格活用

(3) よくでる 次の――線の活用形を答えなさい。

A 新しく出た本はおもしろかったが難解だ。
B 朝の静かな湖は、ほの白い霧に包まれ、とても気持ちが良い。

1 各3点

(1)	① どうくつ	② ち	③ おもかげ	④ めいおう	⑤ はんよう	(2)	① 湿潤	② 分泌
							③ 丘陵	④ 肥沃
							⑤ 柳	

2 (1)各1点、(2)各2点、(3)各5点

(1)	ア	① ま	② み	③ む	イ	① て	② て	③ てる	ウ	① かろ	② かっ	③ い	エ	① だろ	② だっ	③ だ	(2)	A	① イ	② ア	③ エ	B	① イ
		④ む	⑤ め	⑥ め		④ てる	⑤ てれ	⑥ てろ		④ い	⑤ けれ	⑥ く		④ なら	⑤ で	⑥ に			④ ア	② ウ	③ オ		② ア
		⑦ も	⑧ ん																				③ エ

(3)
A ① 連用形　② 連用形　③ 終止形
B ① 連体形　② 連体形　③ 終止形

27

表現を見つめる

走れメロス①

教科書 P.196～213

光村 国語中2

学習した日　　月　　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「言うな！」とメロスは、いきり立って反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、ⓐ民の忠誠をさえ疑っておられる。」

「疑うのが正当の心構えなのだと、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、あてにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じてはならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほっとため息をついた。「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。

「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

「黙れ。」王は、さっと顔を上げてⓑ報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人のはらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、今にはりつけになってから、泣いてわびたって聞かぬぞ。」

「ああ、王は利口だ。ⓒうぬぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命ゴいなど決してしない。ただ、――」と言いかけて、メロスは足元に視線を落とし、瞬時ためらい、「ただ、私に情けをかけたいつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、ⓓデイシュを持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰ってきます。」

「ばかな。」と暴君は、しゃがれた声で低く笑った。「とんでもないうそを言うわい。逃げた小鳥が帰ってくると言うのか。」

「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約束を守ります。私を三日間だけ許してください。妹が私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまって、三日目の日暮れまで、ここに帰ってこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてください。」

（教科書P.198～199／太宰治「走れメロス」）

(1) ――線ⓐ～ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よく出る ――線①「人の……見え透いてならぬ」とあるが、王は人をどのようなものだと考えているか。文章中から四字で書き抜きなさい。

(3) ――線②「ああ、王は利口だ」とあるが、こう言ったときのメロスの心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　人間の本質を見抜いている王に感心している。
イ　王をほめれば許されるだろうと安心している。
ウ　泣いてわびると決めつける王に怒りを感じている。

(4) ――線③「命ゴいなど……ただ、――」とあるが、メロスがためらったのはなぜか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(5) ――線④「逃がした小鳥」とは何のことか。答えなさい。

(6) ――線⑤「無二の友人」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　二人いる親友のうちの一人。　　イ　大切な一番の親友。
ウ　昔からの親友。　　エ　少ない友達のうちの一人。

(7) よく出る ――線⑥「頼む。そうしてください」とあるが、メロスはどのような提案をしたのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各5点、(4)(7)各20点、他各10点

(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
ⓒ 乞	ⓐ たみ	私欲の塊	ウ	(例)たった一人の妹に結婚式を挙げさせてやるために三日間の日限がほしいから。	メロス	イ	(例)処刑までに三日間の日限をもらい、メロスが戻るまでセリヌンティウスを人質として置いていくという提案。
ⓓ 亨主	ⓑ むく						

★(2) 人間は私欲の塊だからこそ、信用できないと考えている。
★(3) 「利口だ」とは、勝手な判断をしている王に対する皮肉。
★(4) 直後にメロスがためらった理由が書かれている。
★(5) 王は一度メロスを自由にすれば、わざわざ死ぬために戻ってくるはずがないと考えている。
★(6) 「無二」は、他に同じものがないほど貴重なものという意味。
★(7) メロスが戻ることを信じない王に対して、妹に結婚式を挙げさせたいがために条件を出したのだ。

28

表現を見つめる

走れメロス②

教科書 P.196～213

光村 国語中2

学習した日　　月　　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私は、今宵、殺される。殺されるために走るのだ。身代わりの友を救うために走るのだ。王の奸佞邪知を打ち破るために走るのだ。走らなければならぬ。そうして、私は殺される。若いときから名誉を守れ。さらば、ふるさと。若いメロスは、つらかった。幾度か、立ち止まりそうになった。えい、えいと大声上げて、自身を叱りながら走った。村を出て、野を横切り、森をくぐり抜け、隣村に着いた頃には雨もやみ、日は高く昇って、そろそろ暑くなってきた。メロスは額の汗をⓐコブシで払い、ここまで来れば大丈夫、もはや故郷への未練はない。妹たちは、きっとよい夫婦になるだろう。私には、今、なんの気がかりもないはずだ。まっすぐに王城に行き着けば、それでよいのだ。そんなに急ぐ必要もない。ゆっくり歩こう、と持ち前ののんきさを取り返し、好きな小歌をいい声で歌いだした。ⓑぶらぶら歩いて二里行き三里行き、そろそろ全里程の半ばに到達した頃、降ってⓒ湧いた災難、メロスの足は、はたと止まった。見よ、前方の川を。昨日の豪雨で山の水源地は氾濫し、濁流とうとうと下流に集まり、猛勢一挙に橋を破壊し、どうどうと響きをあげる激流が、こっぱみじんに橋げたを跳ね飛ばしていた。ⓓ彼は茫然と立ちすくんだ。あちこちと眺め回し、また、声を限りに呼び立ててみたが、繋舟は残らず波にさらわれて影なく、渡し守の姿も見えない。流れはいよいよ膨れ上がり、海のようになっている。メロスは川岸にうずくまり、男泣きに泣きながらゼウスに手を上げて哀願した。「ああ、しずめたまえ、荒れ狂う流れを！　ⓔ時は刻々に過ぎていきます。太陽も既に真昼時です。あれが沈んでしまわぬうちに、王城に行き着くことができなかったら、あのよい友達が、私のために死ぬのです。」

（教科書P.202～203／太宰治「走れメロス」）

(1) ――線ⓐ～ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線①「走らなければならぬ」とあるが、メロスは殺されるとわかっていてなぜ走るのか。その理由を文章中から二つ書き抜きなさい。

(3) よく出る ――線②「えい、えいと大声上げて」とあるが、なぜ大声を上げたのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　強い決意で気持ちが高ぶって思わず声が出てしまったから。
イ　大声を上げて自分を励まさないとくじけそうになったから。
ウ　なんとかなるだろうとのんきな気持ちで歌いたくなったから。

(4) ――線③「ぶらぶら歩いて二里行き三里行き」とあるが、このときのメロスの心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　後悔　　イ　諦め　　ウ　楽観　　エ　怯え

(5) よく出る ――線④「彼は茫然と立ちすくんだ」とあるが、なぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

(6) ――線⑤「時は刻々に過ぎていきます」とあるが、メロスが時間を気にしているのはなぜか。その理由を説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って答えなさい。

（　）前に王城に行き着けなければ友を救えないから。

1 (1)各5点、(4)10点、他各15点（(2)順不同）

(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
ⓒ はんらん	ⓐ 拳	・身代わりの友を救うため（に走る） ・王の奸佞邪知を打ち破るため（に走る）	イ	ウ	(例)昨日の豪雨で水源地が氾濫し、橋が破壊されて川を渡れなくなっていることがわかったから。	(例)太陽が沈んでしまう
	ⓑ わ					

★(3) 「若いメロスは、つらかった」「立ち止まりそうになった」「自分を叱りながら走った」とあることに着目する。
★(4) のんきさを取り返し、小歌を歌いながら歩いている様子を読み取る。
★(5) 「見よ、前方の川を」以降、氾濫した川の様子が書かれている。

29 表現を見つめる 走れメロス③

教科書 P.196〜213　光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ありがとう、セリヌンティウス。よくも私を信じてくれた。それを思えば、たまらない。①友と友の間の信実は、この世でいちばんほこるべき宝なのだからな。セリヌンティウス、私は走ったのだ。君を欺くつもりは、みじんもなかった。信じてくれ！　私は急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて一気に峠を駆け降りてきたのだ。私だからできたのだよ。ああ、このうえ、私に望みたもうな。放っておいてくれ。どうでもいいのだ。私は負けたのだ。だらしがない。笑ってくれ。王は私に、ちょっと遅れて来い、と耳打ちした。②遅れたら、身代わりを殺して、私を助けてくれると約束した。私は王のヒレツを憎んだ。けれども、今になってみると、私は王の言うままになっている。私は遅れていくだろう。王は、③独り合点して私を笑い、そうしてこともなく私を放免するだろう。そうなったら、私は、死ぬよりつらい。私は、永遠に裏切り者だ。地上で最も不名誉の人種だ。セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君といっしょに死なせてくれ。君だけは私を信じてくれるにちがいない。いや、それも私の、独りよがりか？　ああ、もういっそ、④悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家がある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村から追い出すようなことはしないだろう。正義だの、□だの、愛だの、考えてみればくだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法ではなかったか。ああ、何もかもばかばかしい。私は醜い裏切り者だ。どうとも勝手にするがよい。やんぬるかな。——四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。

（教科書P.206／太宰治「走れメロス」）

(1) ——線ⓐ〜ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ——線①「友と友の間の信実」とあるが、これを失いかけたメロスがセリヌンティウスを疑う気持ちになったことがわかる一文を、文章中から書き抜きなさい。

(3) よくでる ——線②「遅れたら……助けてくれる」とあるが、この王の約束と同じ内容である一文を、文章中から書き抜きなさい。

(4) ——線③「独り合点」とあるが、王はメロスに対してどのように「独り合点」しているのか説明しなさい。

(5) ——線④「悪徳者」と同じ意味で用いられている言葉を、文章中から四字で書き抜きなさい。

(6) よくでる □に入る「偽りのない真面目な心」という意味の言葉を、文章中から二字で書き抜きなさい。

(7) メロスの心情の変化として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　感謝→諦め→開き直り　　イ　怒り→自嘲→安らぎ

ウ　[illegible]　　エ　[illegible]

1 (1)各5点、(2)(4)各20点、(3)15点、他各10点

(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
ⓐ あざむ	ⓑ 卑劣	いや、それも私の、独りよがりか？	人を殺して自分が生きる。	(例)メロスが約束に遅れて来て、自分だけ生き延びようとすると思っている。	裏切り者	信実	ア
ⓒ みにく							

ポイント (2) セリヌンティウスが自分を信じてくれているのか確信がもてなくなっている部分を探す。
ポイント (3) 後半でメロスは自暴自棄になり、王の思惑にはまっている。
ポイント (6) この小説のテーマでもある。
ポイント (7) メロスの気持ちの変化を追って捉える。

30 表現を見つめる 走れメロス④

教科書 P.196〜213　光村 国語中2

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「セリヌンティウス。」メロスは目に涙を浮かべて言った。「私を殴れ。力いっぱいに頬を殴れ。私は、途中で一度、①悪い夢を見た。君がもし私を殴ってくれなかったら、私は君とホウヨウする資格さえないのだ。殴れ。」

セリヌンティウスは、全てを察した様子でうなずき、刑場いっぱいに鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴った。殴ってから優しくほほ笑み、「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、②ちらと君を疑った。生まれて初めて君を疑った。君が私を殴ってくれなければ、私は君とホウヨウできない。」

メロスは腕にうなりをつけてセリヌンティウスの頬を殴った。

「ありがとう、友よ。」二人同時に言い、ひしと抱き合い、それからうれし泣きに□声を放って泣いた。

群衆の中からも、歓欲の声が聞こえた。暴君ディオニスは、群衆の背後から二人のさまをまじまじと見つめていたが、やがて静かに二人に近づき、③顔を赤らめて、こう言った。

「おまえらの望みはかなったぞ。おまえらは、④わしの心に勝ったのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。どうか、わしも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

（教科書P.209〜211／太宰治「走れメロス」）

(1) ——線のカタカナを漢字に直しなさい。

(2) よくでる ——線①「悪い夢を見た」とあるが、どのようなことを考えたのか。「日没」という言葉を使って説明しなさい。

(3) ——線②「ちらと君を疑った」とあるが、どのようなことを考えたのか。説明しなさい。

(4) □に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　さめざめ　　イ　おいおい　　ウ　しみじみ　　エ　めそめそ

(5) よくでる お互いの頬を殴り合ったときの二人の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　自分と同じ痛みを相手にも味わってほしいという気持ち。

イ　王の前で、二人の友情の強さを示したいという気持ち。

ウ　友の心の痛みを、少しでも軽くしてやりたいという気持ち。

(6) ——線③「顔を赤らめて」とあるが、このときの王の気持ちとして適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　恥ずかしさ　　イ　怒り　　ウ　悲しみ　　エ　興奮　　オ　落胆

(7) よくでる ——線④「わしの心」とあるが、このことを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①二字）と（②四字）とを信じること。

1 (1)(4)各5点、他各15点（(6)順不同・完答）

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7) ①	(7) ②
抱擁	(例)日没までに戻るのを諦めること。	(例)メロスが自分を裏切り、戻ってこないのではないかということ。	イ	ウ	ア　エ	信実	空虚な妄想

ポイント (2) 約束の日時までに戻ることを諦めそうになったことを指している。
ポイント (3) 友を信じる気持ちが揺らいだことを指している。
ポイント (4) 直後の「声を放って」に注目する。
ポイント (5) 相手の気持ちを思いやっての行為だということを読み取る。
ポイント (6) 自分のこれまでの行いを恥じるとともに、信実が存在することが証明された喜びで興奮している。

31

教科書 P.214・215・244～250

表現を見つめる

漢字に親しもう6／文法への扉3 一字違いで大違い

学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　／100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) 次の――線の漢字をひらがなに直しなさい。

① 彼は果敢に敵地に攻め込んだ。
② 病の治癒を一心に願う。
③ 子供を小児科で診てもらう。
④ 毎日のジョギングでずいぶん痩せた。
⑤ 免疫力を高めるために運動する。

(2) 次の――線のカタカナを漢字に直しなさい。

① 図書館で借りたフキュウの名作を読む。
② 先日の発言をテッカイする。
③ 毎朝新聞を読むことをショウレイする。
④ この案を実行に移すのは時期ショウソウだ。
⑤ 彼はシンポウ遠慮をめぐらせていた。

2 次の問いに答えなさい。

(1) 次の――線の言葉は、助詞と助動詞のどちらか。記号で答えなさい。

① 姉が塾から帰ったようだ。
② 宿題だけして、早く眠りたいなあ。

(2) 次の――線の「れる・られる」と同じ意味・用法のものをあとから選び、記号で答えなさい。

① 先生が朝礼で話される。
② 彼女が班長に選ばれる。
③ 昔のことが思い出される。
④ 私はどこでも寝られる。

ア いつも友人に助けられる。
イ 兄は何でも食べられる。
ウ お客さんが家に来られる。
エ 弟の行く末が案じられる。

(3) 次の――線の「そうだ」のうち意味が他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母は少し悲しそうだ。
イ 先生は花が好きだそうだ。
ウ 今日は良い天気になりそうだ。
エ 父が今にも笑いそうだ。

(4) 次の――線の助詞の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

① 明日まで待ってくれませんか。
② 家族での外食が私の楽しみだ。
③ 私の祖母はいつもやさしいよ。
④ 今日は晴れだが明日は雨らしい。

ア 格助詞　イ 副助詞　ウ 接続助詞　エ 終助詞

(5) 次の――線の「の」と同じ意味・用法のものをあとから選び、記号で答えなさい。

・海の見える旅館に泊まる。

ア 桜の咲く季節になった。
イ 緑のかばんは私のだ。
ウ 昨日は何を食べたの。
エ これは山田君の自転車だ。

1 各4点

(1)		(2)	
① かかん	② ちゆ	① 不朽	② 撤回
③ しょうに	④ や	③ 奨励	④ 尚早
⑤ めんえき		⑤ 深謀	

2 (1)各5点（順不同・完答）、他各4点

(1)				(2)		(3)	(4)		(5)
①		②		①	②		①	②	
助詞	助動詞	助詞	助動詞	助詞	助動詞				
ア、イ	ウ、エ	ア、イ、エ	ウ	ウ	ア	イ	イ	ア	ア
				エ	イ		エ	ウ	
							③	④	

(2) ①は「尊敬」、②は「受け身」、③は「自発」、④は「可能」。
(3) イは「伝聞」、それ以外は「推定・様態」。
(4) ④は「だが、しかし」という逆接の役割をしている。
(5) 主語を表す「の」を使ったものを選ぶ。

32

教科書 P.220～221・222～223

表現を見つめる

言葉3 話し言葉と書き言葉／漢字3 送り仮名

学習した日　月　日

光村 国語中2

時間25分　／100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、小麦ベーカリーでのインタビューと、それを報告文にまとめたものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〈小麦ベーカリーの山田店長へのインタビュー〉
ここは三十年前に父が始めた店なんだ。だいたい十五種類くらいのパンがあるよ。ソーセージが入ったのとかカレーのやつが人気だね。一番うれしいのはお客さんに「おいしい」って言われたときだね、子供とかさ。

〈報告文〉
[A]は、三十年前に[B]が始めた店です。[C]十五種類のパンがあります。ソーセージが入った[D]や、[E]が人気です。……

① [　]A～Eに入る言葉を答えなさい。
② ――線を書き言葉の報告文に直しなさい。

(2) 次の――線の話し言葉を、書き言葉に直しなさい。

① そこんとこが、よくわかりません。
② 約束の時間に遅れちゃった。
③ 電車じゃなくて、バスで行く予定です。
④ 初心者なんですけど、入部できますか。

2 次の問いに答えなさい。

(1) 次の――線の漢字と送り仮名が正しければ○を、間違っていれば正しい形に直しなさい。

① 彼の考え方には偏よりがある。
② 田中先輩は母校の誉れである。
③ ボートを自在に操つる。
④ 年を取って動きが鈍ぶくなる。
⑤ ジムで体を鍛える。

(2) 次の――線のひらがなを漢字と送り仮名に直しなさい。

① 納豆をねばりが出るまで混ぜる。
② 一度の失敗ですぐにこりる。
③ 国の未来をうれえる。
④ つつしんで御礼申し上げます。
⑤ 部屋の掃除をおこたる。

1 (1)①各4点、(1)②10点、(2)各5点

(1)					(2)			
①					①	②	③	④
A	B	C	D	E				
(例)小麦ベーカリー	(例)山田店長のお父様	(例)およそ	(例)もの	(例)カレーパン	(例)そこのところが	(例)遅れてしまった	(例)電車ではなくて	(例)初心者なのですが
② (例)子供など、お客さんに「おいしい」と言われたときが最もうれしいそうです。								

(1)② 最後に添加された「子供とかさ」を「お客さん」の前に入れる。「とか」は「など」に変える。「…だね」「…さ」などの話し言葉は使わない。

2 各5点

(1)				(2)			
①	②	③	④	⑤	①	③	⑤
偏り	○	操る	鈍く	○	粘り	憂える	怠る
					② 懲りる	④ 謹んで	

33 木

教科書 P.228～230　光村 国語中2

表現を見つめる

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

木　　田村隆一

木は黙っているから好きだ
木は歩いたり走ったりしないから好きだ
木は愛とか正義とかわめかないから好きだ
①ほんとうにそうか
ほんとうにそうなのか

見る人が見たら
木は囁いているのだ　ゆったりと静かな声で
②木は歩いているのだ　空にむかって
③木は稲妻のごとく走っているのだ　地の下へ
木はたしかにわめかないが
木は
愛そのものだ　それでなかったら小鳥が飛んできて
枝にとまるはずがない
［　　］そのものだ　それでなかったら地下水を根から吸いあげて
空にかえすはずがない

若木
老樹

ひとつとして同じ木がない
ひとつとして同じ星の光りのなかで
目ざめている木はない

木
ぼくはきみのことが大好きだ

（教科書P.228～229／田村隆一「木」）

(1) この詩の種類を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 文語定型詩　イ 文語自由詩
ウ 口語定型詩　エ 口語自由詩

(2) ――線①「ほんとうにそうか／ほんとうにそうなのか」とあるが、「そう」が指す内容を詩の中から三つ書き抜きなさい。

(3) よくでる ――線②「木は歩いているのだ　空にむかって」とあるが、ここで用いられている表現技法を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。
ア 倒置　イ 対句　ウ 体言止め　エ 擬人法

(4) よくでる ――線③「木は稲妻の……地の下へ」とあるが、これは木のどのような様子を表しているか。簡潔に説明しなさい。

(5) ［　　］に入る言葉を、詩の中から書き抜きなさい。

1 (1)10点、他各15点（(2)順不同、(3)順不同・完答）

(1)	(2)		(3)	(4)	(5)
エ	木は黙っている	木は歩いたり走ったりしない	ア　エ	(例)土の中で根をすばやく縦横無尽に伸ばしている様子。	正義

☆(1) 倒置された表現を元に戻すと「木は空にむかって歩いているのだ」となる。木が「歩く」と木を人間のようにたとえているので「擬人法」も使われている。

☆(2) 第一連で述べた木の特徴について、第二連でそれがほんとうかどうか自問し、第三連で否定している。第一連と第三連でそれぞれ対応している部分を確認しておくこと。

☆(3) 「地の下へ」とあるので木の根のことを表現している。

☆(4) 第一連の「木は愛とか正義とかわめかない」について、木は「愛そのものだ」「正義そのものだ」と考えを改めている。

☆(5)

34 形

教科書 P.274～276　光村 国語中2

学習を広げる

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中村新兵衛は、「槍中村」と呼ばれ、五畿内中国に聞こえた大豪の士であった。新兵衛の火のような猩々緋の陣羽織と唐冠のかぶとの武者姿は、戦場において敵には脅威であり、味方には信頼の的であった。ある日、初陣を前にした若い士が、新兵衛の猩々緋と唐冠を貸してほしいと頼み、新兵衛は快諾した。

その日に限って、黒革おどしのよろいを着て、南蛮鉄のかぶとをかぶっていた中村新兵衛は、会心の微笑を含みながら、猩々緋の武者の華々しい武者ぶりを眺めていた。そして①自分の形だけすらこれほどの力をもっているということに、かなり大きい誇りを感じていた。

彼は二番槍は、自分が合わそうと思ったので、駒を乗り出すと、一文字に敵陣に殺到した。

猩々緋の武者の前には、戦わずして浮き足立った敵陣が、中村新兵衛の前には、びくともしなかった。そのうえに彼らは猩々緋の「槍中村」に突き乱された恨みを、この黒革おどしの武者のうえに復讐せんとして、たけり立っていた。

新兵衛は、いつもとは、勝手が違っていることに気がついた。いつもは虎に向かっている羊のようなおじけが、敵にあった。彼らはうろたえ血迷うところを突き伏せるのに、なんの造作もなかった。今日は、彼らは対等の戦いをするときのように、勇み立っていた。どの雑兵もどの雑兵も十二分の力を新兵衛に対し発揮した。二、三人突き伏せることさえ容易ではなかった。敵の槍の矛先が、ともすれば身をかすった。新兵衛は必死の力を振るった。平素の二倍もの力をさえ振るった。が、彼はともすれば突き負けそうになった。手軽にかぶとや猩々緋を貸したことを、後悔するような感じが頭の中をかすめたときであった。敵の突き出した槍が、おどしの裏をかいて彼の脾腹を貫いていた。

（教科書P.275／菊池寛「形」）

(1) ――線ⓐ～ⓒの漢字をひらがなに直しなさい。

(2) ――線A「猩々緋の武者」、B「黒革おどしの武者」とはそれぞれ誰のことか。次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 中村新兵衛　イ 初陣の若い士　ウ 敵の雑兵

(3) よくでる ――線①「自分の形」とは誰の何のことか。十五字以内で書きなさい。（句点を含む）

(4) よくでる ――線②「かなり大きい誇りを感じていた」とあるが、この時点での新兵衛の考えとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 自分の形は、実力よりも力をもっている。
イ 自分の実力は、形には左右されない。
ウ 自分の形は、自分がもってこそ力を発揮する。
エ 自分の実力は、形がなければ発揮できない。

(5) よくでる ――線③「手軽にかぶとや猩々緋を……頭の中をかすめた」とあるが、なぜ後悔したのか。「～に気づいたから。」に続く形で答えなさい。

1 (1)各5点、(3)(5)20点、他各15点

(1) ⓐ	(1) ⓑ	(1) ⓒ	(2) A	(2) B	(3)	(4)	(5)
びしょう	ぞうさ	ぞうひょう（ぞっぴょう）	イ	ア	(例)中村新兵衛の猩々緋とかぶと。	イ	(例)自分の形も実力の一部であったことに気づいたから。

☆(1)

☆(2) 猩々緋とかぶとを初陣の若い士に貸したのである。

☆(3) 「猩々緋の武者の華々しい武者ぶり」から、新兵衛の「形」を借りた武者が活躍していることがわかる。

☆(4) 自分の実力は形に左右されないと思っているので、若い士に気軽に「形」を貸したのである。

☆(5) いつも恥が新兵衛の前で実力を出せなかったのは「形」があったからなのだと気づいたのである。

35

教科書 P.277〜283

学習を広げる

生物が記録する科学——バイオロギングの可能性

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

まず、小型の記録計を動物に取り付けて海に放す。そして、しばらくたってから再びその個体を捕まえて、記録計を回収する。その記録計に刻まれたデータを分析するのだ。記録計にはさまざまな種類があり、動物の潜る深度や時間などがわかる。また、小型カメラを取り付ければ、動物の視点で映像も撮ることができる。調べる側の人間ではなく、調べられる側の動物自身がデータを集めるのだ。この調査方法には、「生物が記録する」という意味で、「バイオロギング」という名がつけられている。

①私たちは、この方法を用いて、二〇〇三年からエンペラーペンギンの潜水行動の調査を開始した。それ以前の調査では、エンペラーペンギンの最大潜水深度は五百六十四メートル、最大潜水時間は二十分以上という記録が残っている。ペンギンは、本当にこれほど深く、長時間、潜ることができるのだろうか。

私たちは、まず、南極のマクマード基地近くで実験を行った。海の上に張った氷にペンギンが通り抜けられるくらいの穴を開け、背中に記録計を取り付けた数羽のエンペラーペンギンを放し、潜水深度を記録した。[A]、②得られたデータを見て頭を抱えてしまった。ほとんどの潜水が深度二十メートルより浅く、深い潜水でも百メートルを超えていなかった。

③なぜ、ペンギンは深く潜らないのだろう。

ペンギンの背中に、小型のカメラを取り付けると、その答えが見えてきた。氷の穴から潜っていったペンギンは、氷の裏側のくぼみに⑤潜む魚をついばんで食べていたのだ。ペンギンが潜る穴は、周辺に穴や亀裂がない所に人工的に設けたものだ。[B]、④氷の下の海には、ペンギンのエサとなる魚やオキアミが手つかずのまま、豊富に泳いでいる。ペンギンはそもそもエサを捕らえるために海の中に潜る。浅く潜ってその目的を果たせるならば、わざわざ百メートル以上も潜る必要はないというわけだ。

（教科書P.278〜279／佐藤克文「生物が記録する科学——バイオロギングの可能性」）

(1) ⑧〜ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) [A]・[B]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　また　イ　例えば　ウ　したがって　エ　ところが

(3) ③線①「私たちは……開始した」について、次の問いに答えなさい。

① 「この方法」とは何か。文章中から七字で書き抜きなさい。

② 必ずでる エンペラーペンギンの調査を開始するにあたって、どのような疑問点があったか。文章中から一文で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。（句点を含む）

(4) 必ずでる ③線②「得られたデータを見て頭を抱えてしまった」とあるが、なぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

(5) よくでる ③線③「なぜ、ペンギンは深く潜らないのだろう」とあるが、その理由を説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

ペンギンは、（①三字）に設けた穴の周辺の（②八字）に潜む魚を食べていたから。

(6) ③線④「氷の下の海には……泳いでいる」とあるが、なぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

1 (1)(2)(3)①各5点、(4)(6)各20点、他各10点（(3)②完答）

(1)	ⓒ	餌															
	⑧	もぐ															
	ⓑ	ひそ															
(2)	A	エ															
	B	ウ															
(3)	①	バイオロギング															
	② 初め	ペンギンは															
	② 終わり	だろうか。															
(4)		例エンペラーペンギンのほとんどの潜水が深度二十メートルより浅く、深い潜水でも百メートルを超えていなかったから。															
(5)	①	人工的															
	②	氷の裏側のくぼみ															
(6)		例もともと穴や亀裂がない所に、実験のために人工的に穴を設けたから。															

(3)② 直後の「それ以前の調査では〜」以下から読み取る。既存の記録に対する疑問が述べられている。

(5)(6) 「氷の穴から……食べていた」とあり、その穴は、「周辺に……人工的に設けたもの」であった。もともと捕食動物（ペンギン）が入れない所だったので、「魚やオキアミが手つかずのまま」だったのである。

36

教科書 P.284〜288

学習を広げる

敦盛の最期——「平家物語」から

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

源氏方の武将の熊谷次郎直実が取り押さえた武者は、十六、七歳ぐらい、自分の息子小次郎と同い年ぐらいで、実に美しい若武者（平敦盛）であった。直実がその名を問うと、若武者は次のように答えた。

「さては、汝にあうては名乗るまじいぞ。汝がためにはよい敵ぞ。①名乗らずとも頸を取って人に問へ。見知らうずるぞ。」

とぞ宣ひける。熊谷、「ⓐあつぱれ、大将軍や。この人一人討ち奉たりとも、負くべきいくさに勝つべきやうもなし。また討ち奉らずとも、勝つべきいくさに負くることもよもあらじ。②小次郎が薄手負うたるをだに、直実は心苦しうこそ思ふに、③この殿の父、討たれぬと聞いて、いかばかりか嘆きたまはんずらん。④あはれ助け奉らばや。」と思ひて、⑤後ろをきつと見ければ、土肥、梶原五十騎ばかりで続いたり。熊谷涙をおさへて申しけるは、「助け参らせんとは存じ候へども、御方の軍兵雲霞のごとく候。よも逃れさせたまはじ。人手にかけ参らせんより、同じくは直実が手にかけ参らせて、後の御孝養をこそ仕り候はめ。」

（教科書P.286〜287／「敦盛の最期——『平家物語』から」）

(1) ⑧〜ⓒを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(2) 必ずでる ③線①「名乗らずとも……人に問へ」は「私が名乗らなくても首を取って人に尋ねよ」という意味である。若武者はなぜこのように言ったのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　自分にはもう名乗る気力がないので、他の人に聞いてほしかったから。
イ　自分の身分が高いため、首を見せれば自分が誰であるかわかるから。
ウ　自分の名前を、敵である直実には絶対に知られたくなかったから。
エ　自分が名乗らなければ、直実が手柄をあげることを阻止できるから。

(3) ③線②「小次郎が薄手負うたるをだに」は「小次郎が軽傷を負ったただけで」という意味である。小次郎が軽傷を負ったとき、直実はどのように思うと述べているか。古文中から八字で書き抜きなさい。

(4) 必ずでる ③線③「この殿の父、……たまはんずらん」は「この殿の父は、討たれたと聞いて、どんなに嘆かれることだろう」という意味である。「討たれた」の主語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　熊谷次郎直実　イ　小次郎　ウ　若武者　エ　敦盛の父

(5) よくでる ③線④「あはれ助け奉らばや」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　ああ、助けて差しあげたい　イ　ああ、助けてなどやるものか
ウ　ああ、私を助けてください　エ　ああ、助けを呼んでください

(6) ③線⑤「よも逃れさせたまはじ」は「決してお逃げになることはできますまい」という意味であるが、なぜ逃げられないのか。説明しなさい。

1 (1)各5点、(3)(6)20点、他各15点

(1)	ⓒ	おもいて															
	⑧	あつぱれ															
	ⓑ	よう															
(2)		イ															
(3)		心苦しうこそ思ふ															
(4)		ウ															
(5)		ア															
(6)		例直実の味方の軍兵がたくさん集まってきているから。															

(1) 「首を取って人に尋ねよ」と言ったということは、尋ねれば自分が誰かわかるほど顔を知られている身分の高い人物であるということ。

(3) 「直実は……思ふ」とある。「心苦しう」は「つらく」の意味。

(4) 直実が取り押さえている若武者を討ったら、それを聞いた若武者の父が嘆くだろう、という内容。

(5) (4)で確認したように、直実は若武者の父親の気持ちを思いやっている。そのため「助けて差しあげたい」と思っているのである。

(6) 「御方の軍兵雲霞のごとく候」は「味方の軍兵が雲や霞のように取り巻いています」という意味。そのため、若武者を助けたくても逃がすことができないのである。